



Informatica® Informatica
10.0

新機能ガイド

Informatica Informatica 新機能ガイド
10.0
2015 年 11 月

© 著作権 Informatica LLC 1998, 2018

本ソフトウェアおよびマニュアルには、Informatica LLC の所有権下にある情報が収められています。これらは使用および開示の制限等を定めた使用許諾契約のもとに提供され、著作権法により保護されています。本ソフトウェアのリバースエンジニアリングは禁じられています。本マニュアルのいかなる部分も、いかなる手段（電子的複製、写真複製、録音など）によっても、Informatica LLC の事前の承諾なしに複製または転載することは禁じられています。このソフトウェアは、米国および/または国際的な特許、およびその他の出願中の特許によって保護されています。

合衆国政府によるソフトウェアの使用、複製または開示は、DFARS 227.7202-1 (a) および 227.7702-3 (a) (1995 年)、DFARS 252.227-7013(C) (1) (ii) (1988 年 10 月)、FAR 12.212 (a) (1995 年)、FAR 52.227-19、または FAR 52.227-14 (ALT III) に記載されているとおり、当該ソフトウェア使用許諾契約に定められた制限によって規制されます。

本製品または本書の情報は、予告なしに変更されることがあります。お客様が本製品または本書内に問題を発見された場合は、書面に当社までお知らせください。

Informatica、Informatica Platform、Informatica Data Services、PowerCenter、PowerCenterRT、PowerCenter Connect、PowerCenter Data Analyzer、PowerExchange、PowerMart、Metadata Manager、Informatica Data Quality、Informatica Data Explorer、Informatica B2B Data Transformation、Informatica B2B Data Exchange、Informatica On Demand、Informatica Identity Resolution、Informatica Application Information Lifecycle Management、Informatica Complex Event Processing、Ultra Messaging、および Informatica Master Data Management は、Informatica LLC の米国および世界中の管轄地での商標または登録商標です。その他のすべての企業名および製品名は、それぞれの企業の商標または登録商標です。

本ソフトウェアまたはドキュメントの一部は、次のサードパーティが有する著作権に従います（ただし、これらに限定されません）。Copyright DataDirect Technologies.コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) Sun Microsystems.コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) RSA Security Inc. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) Ordinal Technology Corp. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) Aandacht c.v. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright Genivia, Inc. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright Isomorphic Software. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) Meta Integration Technology, Inc. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) Intalio. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) Oracle. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) Adobe Systems Incorporated. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) DataArt, Inc. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) ComponentSource. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) Microsoft Corporation. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) Rogue Wave Software, Inc. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) Teradata Corporation. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) Yahoo! Inc. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) Glyph & Cog, LLC. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) Thinkmap, Inc. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) Clearpace Software Limited. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) Information Builders, Inc. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) OSS Nokalva, Inc. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright Edifecs, Inc. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright Cleo Communications, Inc. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) International Organization for Standardization 1986. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) ej-technologies GmbH. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) Jaspersoft Corporation. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) International Business Machines Corporation. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) yWorks GmbH. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) Lucent Technologies. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) University of Toronto. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) Daniel Veillard. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) Unicode, Inc. Copyright IBM Corp. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) MicroQuill Software Publishing, Inc. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) PassMark Software Pty Ltd. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) LogiXML, Inc. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) 2003-2010 Lorenzi Davide, コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) Red Hat, Inc. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) The Board of Trustees of the Leland Stanford Junior University. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) EMC Corporation. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) Flexera Software. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) Jinfonet Software. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) Apple Inc. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) Telerik Inc. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) BEA Systems. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) PDFlib GmbH. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) Orientation in Objects GmbH. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) Tanuki Software, Ltd. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) Ricebridge. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) Sencha, Inc. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) Scalable Systems, Inc. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) jQWidgets. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) Tableau Software, Inc. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) MaxMind, Inc. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) TMate Software s.r.o. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) MapR Technologies Inc. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) Amazon Corporate LLC. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) Highsoft. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) Python Software Foundation. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) BeOpen.com. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。Copyright (C) CNRI. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。

本製品には、Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>) によって開発されたソフトウェア、およびさまざまなバージョンの Apache License（まとめて「License」と呼んでいます）の下に許諾された他のソフトウェアが含まれます。これらのライセンスのコピーは、<http://www.apache.org/licenses/>で入手できます。適用法にて要求されないが書面に合意されない限り、ライセンスの下に配布されるソフトウェアは「現状のまま」で配布され、明示的あるいは黙示的かを問わず、いかなる種類の保証や条件も付帯することはありません。ライセンス下での許諾および制限を定める具体的文言については、ライセンスを参照してください。

本製品には、Mozilla (<http://www.mozilla.org/>) によって開発されたソフトウェア、ソフトウェア copyright The JBoss Group, LLC, コンテンツの無断複写・転載を禁じます、ソフトウェア copyright, Red Hat Middleware, LLC, コンテンツの無断複写・転載を禁じます、Copyright (C) 1999-2006 by Bruno Lowagie and Paulo Soares および GNU Lesser General Public License Agreement (<http://www.gnu.org/licenses/lgpl.html> を参照) に基づいて許諾されたその他のソフトウェアが含まれています。資料は、Informatica が無料で提供しており、一切の保証を伴わない「現状渡し」で提供されるものとし、Informatica Corporation は市場性および特定の目的の適合性の黙示の保証などを含めて、一切の明示的及び黙示的保証の責任を負いません。

製品には、ワシントン大学、カリフォルニア大学アーバイン校、およびバンダービルト大学の Douglas C.Schmidt および同氏のリサーチグループが著作権を持つ ACE (TM) および TAO (TM) ソフトウェアが含まれています。Copyright (C) 1993-2006, コンテンツの無断複写・転載を禁じます。

本製品には、OpenSSL Toolkit を使用するために OpenSSL Project が開発したソフトウェア（copyright The OpenSSL Project.コンテンツの無断複写・転載を禁じます）が含まれています。また、このソフトウェアの再配布は、<http://www.openssl.org> および <http://www.openssl.org/source/license.html> にある使用条件に従います。

本製品には、Curl ソフトウェア Copyright 1996-2013, Daniel Stenberg, <daniel@haxx.se>が含まれます。コンテンツの無断複写・転載を禁じます。本ソフトウェアに関する許諾および制限は、<http://curl.haxx.se/docs/copyright.html> にある使用条件に従います。すべてのコピーに上記の著作権情報との許諾情報が記載されている場合、目的に応じて、本ソフトウェアの使用、コピー、変更、ならびに配布が有償または無償で許可されます。

本製品には、ソフトウェア copyright 2001-2005 (C) MetaStuff, Ltd. コンテンツの無断複写・転載を禁じます。が含まれます。本ソフトウェアに関する許諾および制限は、<http://www.dom4j.org/license.html> にある使用条件に従います。

製品には、ソフトウェア copyright (C) 2004-2007, The Dojo Foundation が含まれます。コンテンツの無断複写・転載を禁じます。本ソフトウェアに関する許諾および制限は、<http://dojotoolkit.org/license> にある使用条件に従います。

本製品には、ICU ソフトウェア copyright International Business Machines Corporation および他のソフトウェアが含まれます。コンテンツの無断複写・転載を禁じます。本ソフトウェアに関する許諾および制限は、<http://source.icu-project.org/repos/icu/icu/trunk/license.html> にある使用条件に従います。

本製品には、ソフトウェア copyright (C) 1996-2006 Per Bothner が含まれます。コンテンツの無断複写・転載を禁じます。お客様がこのようなソフトウェアを使用するための権利は、ライセンスで規定されています。<http://www.gnu.org/software/kawa/Software-License.html> を参照してください。

本製品には、OSSP UUID ソフトウェア Copyright (C) 2002 Ralf S. Engelschall, Copyright (C) 2002 The OSSP Project Copyright (C) 2002 Cable & Wireless Deutschland が含まれます。本ソフトウェアに関する許諾および制限は、<http://www.opensource.org/licenses/mit-license.php> にある使用条件に従います。

本製品には、Boost (<http://www.boost.org/>) によって開発されたソフトウェア、または Boost ソフトウェアライセンスの下で開発されたソフトウェアが含まれます。本ソフトウェアに関する許諾および制限は、http://www.boost.org/LICENSE_1_0.txt にある使用条件に従います。

本製品には、ソフトウェア copyright (C) 1997-2007 University of Cambridge が含まれます。本ソフトウェアに関する許諾および制限は、<http://www.pcre.org/license.txt> にある使用条件に従います。

本製品には、ソフトウェア copyright (C) 2007 The Eclipse Foundation が含まれます。コンテンツの無断複写・転載を禁じます。本ソフトウェアに関する許諾および制限は、<http://www.eclipse.org/org/documents/epl-v10.php> および <http://www.eclipse.org/org/documents/edl-v10.php> にある使用条件に従います。

本製品には、<http://www.tcl.tk/software/tcltk/license.html>、<http://www.bosrup.com/web/overlib/?License>、<http://www.stlport.org/doc/license.html>、<http://www.asm.ow2.org/license.html>、<http://www.cryptix.org/LICENSE.TXT>、<http://hsqldb.org/web/hsqldbLicense.html>、<http://httpunit.sourceforge.net/doc/license.html>、<http://jung.sourceforge.net/license.txt>、http://www.zip.org/zlib/zlib_license.html、<http://www.openldap.org/software/release/license.html>、<http://www.libssh2.org>、<http://slf4j.org/license.html>、<http://www.sente.ch/software/OpenSourceLicense.html>、<http://fusesource.com/downloads/license-agreements/fuse-message-broker-v-5-3-license-agreement>、<http://antlr.org/license.html>、<http://aopalliance.sourceforge.net/>、<http://www.bouncycastle.org/license.html>、<http://www.jgraph.com/jgraphdownload.html>、<http://www.jcraft.com/jsch/LICENSE.txt>、http://jotm.objectweb.org/bsd_license.html に基づいて許諾されたソフトウェアが含まれています。<http://www.w3.org/Consortium/Legal/2002/copyright-software-20021231>、<http://www.slf4j.org/license.html>、<http://nanoxml.sourceforge.net/orig/copyright.html>、<http://www.json.org/license.html>、<http://forge.ow2.org/projects/jaservice/>、<http://www.postgresql.org/about/license.html>、<http://www.sqlite.org/copyright.html>、<http://www.tcl.tk/software/tcltk/license.html>、<http://www.jaxen.org/faq.html>、<http://www.jdom.org/docs/faq.html>、<http://www.slf4j.org/license.html>、<http://www.iodbc.org/dataspace/iodbc/wiki/iODBC/License>、<http://www.keplerproject.org/md5/license.html>、<http://www.toedter.com/en/jcalendar/license.html>、<http://www.edankert.com/bounce/index.html>、<http://www.net-snmp.org/about/license.html>、<http://www.openmdx.org/#FAQ>、http://www.php.net/license/3_01.txt、<http://srp.stanford.edu/license.txt>、<http://www.schneider.com/blowfish.html>、<http://www.jmock.org/license.html>、<http://xsom.java.net>、<http://benalman.com/about/license/>、<https://github.com/CreateJS/EaselJS/blob/master/src/easeljs/display/Bitmap.js>、<http://www.h2database.com/html/license.html#summary>、<http://jsoncpp.sourceforge.net/LICENSE>、<http://jdbc.postgresql.org/license.html>、<http://protobuf.googlecode.com/svn/trunk/src/google/protobuf/descriptor.proto>、<https://github.com/rantav/hector/blob/master/LICENSE>、<http://web.mit.edu/Kerberos/krb5-current/doc/mitK5license.html>、<http://jibx.sourceforge.net/jibx-license.html>、<https://github.com/lyokato/libgeohash/blob/master/LICENSE>、<https://github.com/hjiang/jsonxx/blob/master/LICENSE>、<https://code.google.com/p/lz4/>、<https://github.com/jedisct1/libsodium/blob/master/LICENSE>、<http://one-jar.sourceforge.net/index.php?page=documents&file=license>、<https://github.com/EsotericSoftware/kryo/blob/master/license.txt>、<http://www.scala-lang.org/license.html>、<https://github.com/tinkertop/blueprints/blob/master/LICENSE.txt>、<http://gee.cs.oswego.edu/dl/classes/EDU/oswego/cs/dl/util/concurrent/intro.html>、<https://aws.amazon.com/asl/>、<https://github.com/twbs/bootstrap/blob/master/LICENSE>、および <https://sourceforge.net/p/xmlunit/code/HEAD/tree/trunk/LICENSE.txt>。

本製品には、Academic Free License (<http://www.opensource.org/licenses/afl-3.0.php>)、Common Development and Distribution License (<http://www.opensource.org/licenses/cddl1.php>)、Common Public License (<http://www.opensource.org/licenses/cpl1.0.php>)、Sun Binary Code License Agreement Supplemental License Terms、BSD License (<http://www.opensource.org/licenses/bsd-license.php>)、BSD License (<http://opensource.org/licenses/BSD-3-Clause>)、MIT License (<http://www.opensource.org/licenses/mit-license.php>)、Artistic License (<http://www.opensource.org/licenses/artistic-license-1.0>)、Initial Developer's Public License Version 1.0 (<http://www.firebirdsql.org/en/initial-developer-s-public-license-version-1-0/>) に基づいて許諾されたソフトウェアが含まれています。

本製品には、ソフトウェア copyright (C) 2003-2006 Joe Walnes, 2006-2007 XStream Committers が含まれています。コンテンツの無断複写・転載を禁じます。本ソフトウェアに関する許諾および制限は、<http://j.org/license.html> にある使用条件に従います。本製品には、Indiana University Extreme! Lab によって開発されたソフトウェアが含まれています。詳細については、<http://www.extreme.indiana.edu/> を参照してください。

本製品には、ソフトウェア Copyright (C) 2013 Frank Balluffi and Markus Moeller が含まれています。コンテンツの無断複写・転載を禁じます。本ソフトウェアに関する許諾および制限は、MIT ライセンスの使用条件に従います。

特許については、<https://www.informatica.com/legal/patents.html> を参照してください。

免責: 本文書は、一切の保証を伴わない「現状渡し」で提供されるものとし、Informatica LLC は他社の権利の非侵害、市場性および特定の目的への適合性の黙示の保証などを含めて、一切の明示的および黙示的保証の責任を負いません。Informatica LLC では、本ソフトウェアまたはドキュメントに誤りのないことを保証していません。本ソフトウェアまたはドキュメントに記載されている情報には、技術的に不正確な記述や誤植が含まれる場合があります。本ソフトウェアまたはドキュメントの情報は、予告なしに変更されることがあります。

NOTICES

この Informatica 製品（以下「ソフトウェア」）には、Progress Software Corporation（以下「DataDirect」）の事業子会社である DataDirect Technologies からの特定のドライバ（以下「DataDirect ドライバ」）が含まれています。DataDirect ドライバには、次の用語および条件が適用されます。

1. DataDirect ドライバは、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けます。
2. DataDirect または第三者は、予見の有無を問わず発生した ODBC ドライバの使用に関するいかなる直接的、間接的、偶発的、特別、あるいは結果的損害に対して責任を負わないものとします。本制限事項は、すべての訴訟原因に適用されます。訴訟原因には、契約違反、保証違反、過失、厳格責任、詐称、その他の不法行為を含みますが、これらに限るものではありません。

発行日: 2018-10-26

目次

序文	7
Informatica のリソース.....	7
Informatica マイサポートポータル.....	7
Informatica マニュアル.....	7
Informatica 製品可用性マトリックス.....	8
Informatica の Web サイト.....	8
Informatica How-To ライブラリ.....	8
Informatica ナレッジベース.....	8
Informatica サポートの YouTube チャンネル.....	8
Informatica Marketplace.....	8
Informatica Velocity.....	8
Informatica グローバルカスタマサポート.....	9
 第 1 章 : 新機能 (10.0)	10
アプリケーションサービス.....	10
アプリケーションサービスの無効化とリサイクル.....	11
データ統合サービス.....	11
モデルリポジトリサービス.....	12
システムサービス.....	13
Big Data.....	14
Big Data Management 設定ユーティリティ.....	14
Hadoop 接続.....	14
Hadoop エコシステム.....	14
Big Data のパラメータ.....	15
ランタイムおよび検証環境.....	15
Business Glossary.....	16
承認ワークフロー.....	16
用語集アセットの添付ファイル.....	16
Long String データ型.....	17
リッチテキストのサポート.....	17
インポートとエクスポートの機能拡張.....	17
電子メール通知.....	17
リレーションビュー図の拡張機能.....	17
Analyst ツール特権.....	18
ビジネス用語のリンク.....	18
用語集のセキュリティ.....	18
アセットビュー.....	18
デフォルトの承認者.....	19
コマンドラインプログラム.....	19
接続性.....	27

PowerCenter の接続性.	27
接続の切り替え.	27
データ型.	28
Informatica のデータ型.	28
マニュアル.	29
ドメイン.	30
ノード.	30
Informatica Administrator.	31
[管理] タブ.	31
依存関係グラフ.	33
監視.	33
Informatica Analyst.	36
アセットのバージョン管理.	36
プロファイル.	36
Informatica Developer.	37
DDL の生成と実行.	37
実行時のリレーショナルメタデータおよびフラットファイルメタデータの生成.	37
PowerCenter からのインポート.	38
Monitoring ツール.	38
オブジェクトのバージョン管理.	39
アプリケーションの物理データオブジェクト.	40
プロファイル.	40
Informatica Development Platform.	41
マッピング.	42
Informatica マッピング.	42
Metadata Manager.	47
Tableau リソース.	48
データリネージュの改良点.	48
メタデータカタログビュー.	49
Cloudera Navigator リソースの Impala クエリ.	49
Informatica Platform リソースのパラメータ.	49
最近の履歴.	49
関連するカタログオブジェクトおよび影響のサマリのフィルタおよびソート.	49
影響のサマリ内のセッションタスクインスタンス.	49
アプリケーションおよびデータリネージュプロパティ.	50
PowerCenter.	50
PowerExchange アダプタ.	51
PowerExchange Adapters for Informatica.	51
参照データ.	53
ルール仕様.	54
セキュリティ.	55
グループ.	55

特権.	55
ロール.	56
トランスフォーメーション言語関数.	56
Informatica 関数.	56
トランスフォーメーション.	56
Informatica トランスフォーメーション.	57
ワークフロー.	61
Informatica ワークフロー.	61

序文

*Informatica の新機能および改良点ガイド*は、すべての Informatica ソフトウェアユーザ向けに書かれています。このガイドは Informatica 製品での新機能および改良点のリストです。

Informatica のリソース

Informatica マイサポートポータル

Informatica のユーザーは、最初に Informatica マイサポートポータル (<https://mysupport.informatica.com>) から Informatica にアクセスします。マイサポートポータルは、大規模なオンラインデータ統合コラボレーションプラットフォームであり、全世界で 10 万人を超える Informatica の顧客およびパートナーが利用しています。

メンバーは以下の操作を行うことができます。

- 1 つの場所からすべての Informatica のリソースにアクセスできます。
- 自分のサポート事例を確認できます。
- ナレッジベースや製品マニュアルを検索したり、入門ドキュメントを参照したり、サポートビデオを視聴したりできます。
- 最寄りの Informatica ユーザーグループネットワークを検索して、他のユーザーと共同作業を行えます。

メンバーは以下の操作を行うことができます。

- 1 つの場所からすべての Informatica のリソースにアクセスできます。
- ナレッジベースや製品マニュアルを検索したり、入門ドキュメントを参照したり、サポートビデオを視聴したりできます。
- 最寄りの Informatica ユーザーグループネットワークを検索して、他のユーザーと共同作業を行えます。

Informatica マニュアル

Informatica マニュアルチームは、正確で役に立つマニュアルの作成に努めています。このマニュアルに関する質問、コメント、ご意見の電子メールの送付先は、Informatica マニュアルチーム (info_documentation@informatica.com) です。お客様のフィードバックは、マニュアルの改良に利用させていただきます。コメントに返信をご希望のお客様は、その旨をお知らせください。

マニュアルチームは、必要に応じてマニュアルを更新します。製品の最新のマニュアルを入手するには、<https://mysupport.informatica.com> から製品マニュアルにアクセスします。

Informatica 製品可用性マトリックス

製品可用性マトリックス（PAM）には、製品リリースでサポートされるオペレーティングシステム、データベースなどのデータソースおよびターゲットが示されています。PAM は、Informatica My Support ポータル (<https://mysupport.informatica.com>) でアクセスできます。

Informatica の Web サイト

Informatica 社の Web サイトは、<https://www.informatica.com> からアクセスできます。このサイトでは、Informatica 社の概要と沿革、今後のイベント、営業拠点などの情報を提供しています。また、製品情報やパートナー情報も提供しています。サービス関連のページには、テクニカルサポート、トレーニングと教育、および実装に関するサービスの重要な情報を掲載しています。

Informatica How-To ライブラリ

Informatica のユーザーとして、Informatica How-To ライブラリ (<https://mysupport.informatica.com>) にアクセスできます。How-To Library は、Informatica の製品および機能についての詳細を確認できるリソースのコレクションです。一般的な問題に対するソリューションを提供したり、機能や動作を比較したり、特定の実際のタスクを実行するための方法を示したりする記事やインタラクティブなデモンストレーションが含まれています。

Informatica ナレッジベース

Informatica のユーザーとして、Informatica ナレッジベース (<https://mysupport.informatica.com>) にアクセスできます。この Knowledge Base を利用して、Informatica 製品に関する既知の技術的問題の解決策を検索することができます。また、FAQ（よくある質問）の答え、技術的ホワイトペーパー、技術的なヒントも得られます。Knowledge Base に関する質問、コメント、ご意見の電子メールの送付先は、Informatica ナレッジベースチーム (KB_Feedback@informatica.com) です。

Informatica サポートの YouTube チャンネル

<http://www.youtube.com/user/INFASupport> で Informatica サポートの YouTube チャンネルにアクセスできます。Informatica サポートの YouTube チャンネルでは、特定のタスクを実行するソリューションについてのビデオを用意しています。Informatica サポートの YouTube チャンネルに関する質問、コメント、またはアイデアがある場合は、サポート YouTube チームに電子メール (supportvideos@informatica.com) を送信するか、または@INFASupport でツイートしてください。

Informatica Marketplace

情報マーケットプレイスは、開発者とパートナーがデータ統合実装を増幅、拡張、強化するソリューションを共有するためのフォーラムです。マーケットプレイスにある何百ものソリューションを利用して、プロジェクトで実装にかかる時間を短縮したり、生産性を向上させたりできます。Informatica Marketplace には、<http://www.informaticamarketplace.com> からアクセスできます。

Informatica Velocity

<https://mysupport.informatica.com> で Informatica Velocity にアクセスできます。数多くのデータ管理プロジェクトの実世界での経験から開発された Informatica Velocity は、世界中の組織と協力して優れたデータ管理ソリューションの計画、開発、展開、および維持を行ってきた弊社コンサルタントの知識の集合体を表しています。Informatica Velocity についての質問、コメント、またはアイデアがある場合は、ips@informatica.com から Informatica プロフェッショナルサービスにお問い合わせください。

Informatica グローバルカスタマサポート

電話またはオンラインサポートからカスタマサポートセンターに連絡できます。

オンラインサポートのご利用には、ユーザー名とパスワードが必要です。<http://mysupport.informatica.com>から、ユーザー名とパスワードが入手できます。

Informatica グローバルカスタマサポートの電話番号は、Informatica の Web サイト <http://www.informatica.com/us/services-and-training/support-services/global-support-centers/>に掲載されています。

第 1 章

新機能（10.0）

この章では、以下の項目について説明します。

- [アプリケーションサービス, 10](#) ページ
- [Big Data, 14](#) ページ
- [Business Glossary, 16](#) ページ
- [コマンドラインプログラム, 19](#) ページ
- [接続性, 27](#) ページ
- [データ型, 28](#) ページ
- [マニュアル, 29](#) ページ
- [ドメイン, 30](#) ページ
- [Informatica Administrator, 31](#) ページ
- [Informatica Analyst, 36](#) ページ
- [Informatica Developer, 37](#) ページ
- [Informatica Development Platform, 41](#) ページ
- [マッピング, 42](#) ページ
- [Metadata Manager, 47](#) ページ
- [PowerCenter, 50](#) ページ
- [PowerExchange アダプタ, 51](#) ページ
- [参照データ, 53](#) ページ
- [ルール仕様, 54](#) ページ
- [セキュリティ, 55](#) ページ
- [トランスフォーメーション言語関数, 56](#) ページ
- [トランスフォーメーション, 56](#) ページ
- [ワークフロー, 61](#) ページ

アプリケーションサービス

ここでは、バージョン 10.0 の新しいアプリケーションサービスについて説明します。

アプリケーションサービスの無効化とリサイクル

バージョン 10.0 では、アプリケーションサービスの無効化とリサイクルに次の新機能が追加されました。

計画済みおよび未計画のメモ

Administrator ツールからアプリケーションサービスを無効化またはリサイクルするときに、アクションを計画済みにするか未計画にするかを指定できます。計画済みまたは未計画のメモは、**【管理】** タブの **【ドメイン】** ビューにある **【コマンド履歴】** パネルと **【イベント】** パネルに表示されます。

コメント

Administrator ツールからアプリケーションサービスを無効化またはリサイクルするときに、必要に応じて、アクションに関するコメントを入力できます。コメントは、**【管理】** タブの **【ドメイン】** ビューにある **【コマンド履歴】** パネルと **【イベント】** パネルに表示されます。

詳細については、『*Informatica 10.0 アプリケーションサービスガイド*』を参照してください。

データ統合サービス

ここでは、バージョン 10.0 の新しいデータ統合サービス機能について説明します。

アーキテクチャ

バージョン 10.0 では、データ統合サービスには、次のタイプのコンポーネントが含まれます。

サービスコンポーネント

サービスコンポーネントには、クライアントツールからの要求を管理するモジュール、ジョブを最適化してコンパイルする論理 Data Transformation マネージャ (LDTM)、およびアプリケーションのデプロイメントとキャッシュを管理するマネージャが含まれます。サービスコンポーネントは、データ統合サービスプロセス内で実行されます。データ統合サービスプロセスは、サービスロールのあるノードで実行する必要があります。

計算コンポーネント

データ統合サービスの計算コンポーネントは、実行 Data Transformation マネージャ (DTM) です。DTM は、データの抽出、変換、およびロードを行って、データトランスフォーメーションジョブを完了します。DTM は、計算ロールのあるノードで実行する必要があります。

単一ノードでデータ統合サービスを実行する場合、データ統合サービスのサービスコンポーネントと計算コンポーネントは同じノードで実行されます。ノードには、サービスロールと計算ロールの両方が必要です。

グリッド上でデータ統合サービスを実行する場合、データ統合サービスのサービスコンポーネントと計算コンポーネントは、グリッドおよびノードロールの設定方法に基づいて同じノードまたは異なるノードで実行されます。個別のリモートプロセスでジョブを実行するようにデータ統合サービスのグリッドを設定した場合、グリッド内のノードでは、サービスのみのロール、計算のみのロール、およびサービスと計算の両方のロールを組み合わせることができます。グリッド内の一部のノードをサービスプロセスの実行専用とし、別のノードをマッピングの実行専用とします。

データ統合サービスのコンポーネントの詳細については、『*Informatica 10.0 アプリケーションサービスガイド*』の「データ統合サービスアーキテクチャ」を参照してください。

DTM リソース割り当てポリシー

バージョン 10.0 では、Data Transformation マネージャのリソース割り当てポリシーによって、タスクに CPU リソースを割り当てる方法が決定されます。DTM は、オンデマンドのリソース割り当てポリシーを使用して、CPU リソースを割り当てます。

DTM リソース割り当てポリシーの詳細については、『*Informatica 10.0 アプリケーションサービスガイド*』の「データ統合サービスアーキテクチャ」を参照してください。

ASCII データ移動モード

バージョン 10.0 では、フラットファイルまたはリレーショナルソースから読み取るマッピングで ASCII データ移動モードを使用するか、Unicode データ移動モードを使用するかが、データ統合サービスの論理 Data Transformation マネージャ (LDTM) のコンポーネントによって決定されます。LDTM は、マッピングによって処理される文字セットに基づいて、データ移動モードを決定します。マッピングによって処理されるのがすべて ASCII データの場合、LDTM は ASCII モードを選択します。ASCII モードの場合、データ統合サービスは各文字の格納に 1 バイトを使用するため、マッピングのパフォーマンスが最適化されます。Unicode モードの場合は、各文字の格納に 2 バイトが使用されます。

データ移動モードの詳細については、『*Informatica 10.0 アプリケーションサービスガイド*』の「データ統合サービスアーキテクチャ」を参照してください。

プロファイルの並行処理の最大化

バージョン 10.0 では、パーティション化が可能な場合、データ統合サービスでカラムプロファイルとデータドメイン検出を実行するときに、並行処理を最大化することができます。並行処理を最大化した場合、データ統合サービスは、プロファイリングデータを複数のパーティションに動的に分割し、複数のスレッドを使用してパーティションを同時に処理します。データ統合サービスは、追加のスレッドを使用するときに、プロファイリングのパフォーマンスを最適化できます。

並行処理の最大化の詳細については、『*Informatica 10.0 アプリケーションサービスガイド*』の「データ統合サービス管理」を参照してください。

複数のキャッシュ、ターゲット、および一時ディレクトリ

バージョン 10.0 では、次のデータ統合サービスのプロパティに対して複数のディレクトリを設定できます。

キャッシュディレクトリ

複数のキャッシュディレクトリを設定し、アグリゲータ、ジョイナ、またはランクトランスフォーメーションのキャッシュのパーティション化時のパフォーマンスを最適化します。

ターゲットディレクトリ

複数のターゲットディレクトリを設定し、複数のパーティションでフラットファイルターゲットに書き込むときのパフォーマンスを最適化します。

一時ディレクトリ

複数の一時ディレクトリを設定し、ソータランスフォーメーションのキャッシュのパーティション化時のパフォーマンスを最適化します。

パーティション化時のキャッシュとターゲットディレクトリの最適化の詳細については、『*Informatica 10.0 アプリケーションサービスガイド*』の「データ統合サービス管理」を参照してください。

モデルリポジトリサービス

ここでは、バージョン 10.0 の新しいモデルリポジトリサービス機能について説明します。

バージョン管理システムサポート

バージョン 10.0 では、サポートされているバージョン管理システムとモデルリポジトリを統合できます。モデルリポジトリがバージョン管理システムと統合されていると、バージョン管理システムによって、開発チームの他のメンバによる上書きからオブジェクトが保護されます。オブジェクトのチェックアウトとチェックイン、オブジェクトのバージョン履歴の表示と取得、チェックアウトの取り消し、チェックアウトされたオブジェクトの他ユーザーへの再割り当てなどのアクションを実行できます。

モデルリポジトリは、次のバージョン管理システムと統合できます。

- Perforce

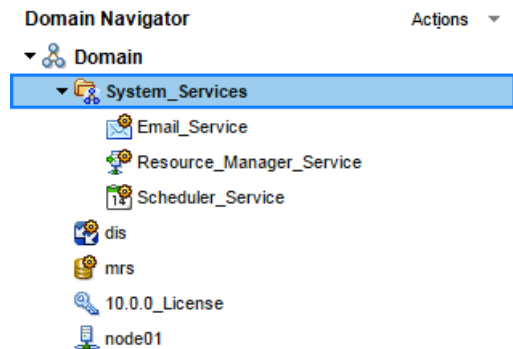
- Subversion

詳細については、『*Informatica 10.0 アプリケーションサービスガイド*』の「モデルリポジトリサービス」を参照してください。

システムサービス

バージョン 10.0 では、ドメインにシステムサービスが含まれます。システムサービスは、ドメイン内で単一のインスタンスを持つことができるアプリケーションサービスです。システムサービスは、ドメインを作成またはアップグレードするときに自動作成されます。システムサービスを有効化、無効化、および設定する操作が可能です。

以下の画像はドメインナビゲータ内のシステムサービスフォルダを示しています。



ドメインには以下のシステムサービスが含まれます。

電子メールサービス

電子メールサービスでは、ビジネス用語集およびワークフロー関連の通知をメール送信します。電子メールサービスを有効にすると、ユーザーが電子メール通知を設定できます。

電子メールサービスは以下の通知を送信します。

- ビジネス用語集通知
- ワークフロー通知
ワークフロー通知には、データ統合サービスが実行するワークフローのヒューマンタスクおよび通知タスクからのメールが含まれます。

リソースマネージャサービス

リソースマネージャサービスは、ドメイン内の計算リソースを管理し、ジョブをディスパッチすることで最適なパフォーマンスと拡張性を達成します。リソースマネージャサービスは、計算ルールが指定されたノードに関する情報を収集します。このサービスは、ジョブ要件をリソースの可用性と突き合わせ、そのジョブの実行に最適な計算ノードを特定します。

データ統合サービスグリッドが個別のリモートプロセスでジョブを実行するように設定するときに、リソースマネージャサービスを有効にします。

スケジューラサービス

スケジューラサービスは、ドメイン内のデプロイされたマッピングおよびワークフロージョブのスケジュールを管理します。

スケジュールを作成してジョブを割り当て、スケジュールされたジョブが実行されるように設定するときに、スケジューラサービスを有効にします。

システムサービスについての詳細は、『*Informatica 10.0 アプリケーションサービスガイド*』の「システムサービス」を参照してください。

Big Data

ここでは、バージョン 10.0 の新しい Big Data 機能について説明します。

Big Data Management 設定ユーティリティ

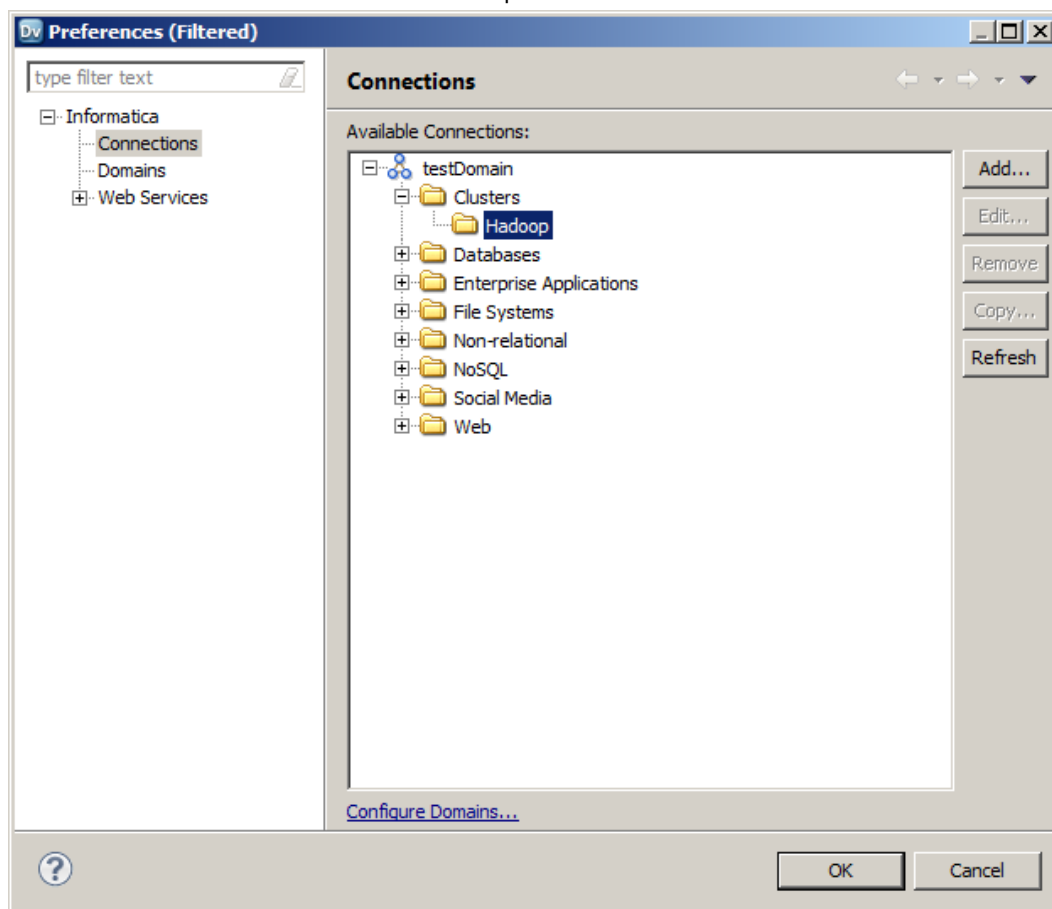
バージョン 10.0 では、Big Data Management 設定ユーティリティを使用して、Big Data Management の環境設定プロセスを部分的に自動化できます。

詳細については、『*Informatica 10.0 Big Data Management インストール & 環境設定ガイド*』を参照してください。

Hadoop 接続

バージョン 10.0 では、Hadoop 環境でマッピングを実行する場合、Hadoop 接続を設定する必要があります。Hadoop 接続を編集して、Hadoop 環境にランタイムプロパティを設定できます。ランタイムプロパティには、Hive エンジンおよび Blaze エンジンのプロパティが含まれます。

次の図は、クラスタタイプの接続として Hadoop 接続を示しています。



詳細については、『*Informatica 10.0 Big Data 管理ユーザーガイド*』の「接続」を参照してください。

Hadoop エコシステム

バージョン 10.0 では、Hadoop エコシステムの次の Big Data 機能と機能拡張がサポートされています。

Amazon EC2 での Hadoop クラスタ

Amazon EC2 にデプロイされている Hortonworks HDP クラスタに対して、データの読み取りおよび読み書きを行うことができます。

Hadoop 分布

次の Hadoop 分布を実行する Hadoop クラスタに接続できます。

- Cloudera CDH 5.4
- MapReduce 1 および MapReduce 2 を含む MapR 4.0.2

Hive on Tez

Hortonworks HDP を実行する Hadoop クラスタの実行エンジンとして、Hive on Tez を使用できます。

Kerberos 認証

Cloudera CDH クラスタおよび Hortonworks HDP Hadoop クラスタの Key Distribution Center として、Microsoft Active Directory を使用できます。

Big Data のパラメータ

バージョン 10.0 では、パラメータを使用して、次に示す Big Data の追加プロパティを指定できます。

- 複合ファイルソースおよびターゲット
- HDFS 上の複合ファイルソースおよびターゲット
- HDFS 上のフラットファイルソースおよびターゲット
- HBase ソースおよびターゲット
- Hive ソース
- Hadoop 環境の Hive ターゲット
- ランタイム環境

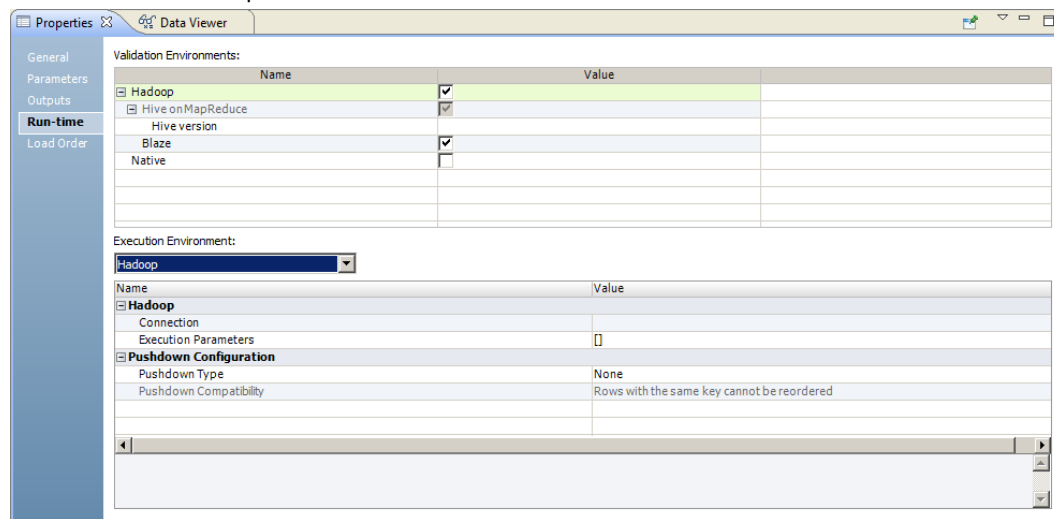
詳細については、『*Informatica 10.0 Big Data 管理ユーザーガイド*』の章「Hadoop 環境でのマッピング」を参照してください。

ランタイムおよび検証環境

バージョン 10.0 では、Hadoop 環境を選択して、Hadoop クラスタでマッピングを実行できます。Hadoop 環境を選択するとき、Hive または Blaze エンジンを選択して、マッピングロジックを Hadoop クラスタにプッシュします。Blaze エンジンは、Hadoop 上の分散処理に用いる、Informatica 独自のエンジンです。

Hadoop 環境でマッピングを実行するとき、マッピングの Hadoop 接続を設定する必要があります。マッピングを検証して、マッピングロジックを Hadoop にプッシュできることを確認します。Hadoop 環境に対するマッピングの検証が終了すると、マッピングを実行できます。

以下の画像は、Hadoop ランタイムおよび検証環境を示しています。



詳細については、『*Informatica 10.0 Big Data 管理ユーザーガイド*』の章「Hadoop 環境でのマッピング」を参照してください。

Business Glossary

ここでは、バージョン 10.0 の新しい Business Glossary 機能について説明します。

承認ワークフロー

バージョン 10.0 では、投票プロセスの後にデータスチュワードが用語集アセットをパブリッシュできます。用語集管理者が用語集の承認ワークフローを設定した後で、データスチュワードは投票プロセスによって、用語集のすべてのアセットをパブリッシュまたは拒否する必要があります。用語集管理者は、2つのレベルまで承認を設定できます。承認者は、アセットの変更を承認または拒否するか、投票を棄権することができます。データスチュワードは、投票結果に基づいてアセットをパブリッシュまたは拒否します。

承認ワークフローを経てパブリッシュされた用語集アセットには、監査証跡に【投票履歴】という新しいタブが追加されます。このタブには、承認ワークフローの詳細が表示されます。

詳細については、『*Informatica 10.0 Business Glossary ガイド*』の「承認ワークフロー」を参照してください。

用語集アセットの添付ファイル

バージョン 10.0 では、用語集アセットに添付ファイルを追加できます。参照ユーザーは、【用語集】ワークスペースで用語集アセットを開いたときに、添付ファイルを表示できます。

アセットの添付ファイルの詳細については、『*Informatica 10.0 Business Glossary ガイド*』の「用語集のコンテンツ管理」を参照してください。添付ファイルディレクトリの設定の詳細については、『*Informatica アプリケーションサービス*』の「アナリストサービス」を参照してください。

Long String データ型

バージョン 10.0 では、Long String データ型のカスタムプロパティを作成できます。コンテンツ管理者がフィールドにコンテンツを追加するとき、Long String データ型では文字数に制限がありません。

Long String データ型の詳細については、『*Informatica 10.0 Business Glossary ガイド*』の「用語集のコンテンツ管理」を参照してください。

リッチテキストのサポート

バージョン 10.0 では、**説明**、**使用コンテキスト**、および**例**などのデフォルトのアセットプロパティを設定するとき、データスチュワードはリッチテキストのコンテンツに書式を設定できます。Long String データ型を持つカスタムプロパティもリッチテキストをサポートしています。

データスチュワードは以下の方法でテキストの書式を設定できます。

- テキストを太字や斜体にするか、下線を引く。
- フォントおよびフォントの色を変更する。
- 順序付けしたリストまたは順序付けしていないリストを追加する。
- 定義済みスタイルを使用する。
- 内部および外部リンクをテキストに挿入する。

リッチテキストについての詳細は、『*Informatica 10.0 Business Glossary ガイド*』の「用語集のコンテンツ管理」を参照してください。

インポートとエクスポートの機能拡張

バージョン 10.0 では、他の用語集、添付ファイル、監査履歴のリンクされたアセットを含めて/含めずに、ビジネス用語集をインポートまたはエクスポートできます。

必要に応じて、バックグラウンドでインポートタスクを実行できます。Analyst ツールがバックグラウンドで用語集をインポートしている間に、ユーザーは他のタスクを実行できます。インポートが完了すると、Analyst ツールから通知が送信されます。

インポートウィザードの最後のステップで、Analyst ツールには、拡張されたサマリと競合解決のオプションが表示されます。

インポートとエクスポートの機能拡張の詳細については、『*Informatica 10.0 Business Glossary ガイド*』の「用語集の管理」を参照してください。

電子メール通知

バージョン 10.0 では、電子メールでの通知の受信を選択できます。Analyst ツールでも、引き続き通知を受信できます。**[用語集の設定]** ワークスペースで、電子メール通知を設定できます。

電子メール通知の詳細については、『*Informatica 10.0 Business Glossary ガイド*』の「用語集コンテンツの検索」を参照してください。

リレーションビュー図の拡張機能

バージョン 10.0 では、リレーションビュー図に次の拡張機能が追加されています。

完全なアセット名の表示

リレーションビュー図で、完全なアセット名およびリレーション名を表示するオプションが追加されました。デフォルトでは、200 文字を超えるアセット名およびリレーション名は Analyst ツールによって切り詰められます。

アセットの検索

リレーションビュー図に表示されているアセットを検索できます。

ノードの展開および折りたたみ

ノードを展開したり、折りたたんだりして、ノードのアセットの表示または非表示を行うことができます。

キャンバスのパン

リレーションビュー図のキャンバスをクリックしてドラッグすることで、キャンバス全体をパンしてアセットを表示できます。

詳細については、『*Informatica 10.0 Business Glossary ガイド*』の「用語集コンテンツの検索」の章を参照してください。

Analyst ツール特権

バージョン 10.0 では、Administrator ツールで、パブリッシュされている用語集アセットの表示特権をユーザーに割り当てることができます。Administrator ツールで**用語集の表示**特権を与えることは、Analyst ツールで**用語集のセキュリティ** ワークスペース内にある用語集およびパブリッシュされている用語集アセットの読み取り権限を与えることと同じです。

詳細については、『*Informatica 10.0 セキュリティガイド*』を参照してください。

ビジネス用語のリンク

バージョン 10.0 では、プロファイルをビジネス用語にリンクできます。Analyst ツールに、リンクされているテクニカルアセットおよびデータオブジェクトへのハイパーリンクが表示されます。ハイパーリンクをクリックすると、データオブジェクトがそれぞれのワークスペースで開きます。

詳細については、『*Informatica 10.0 Business Glossary ガイド*』を参照してください。

用語集のセキュリティ

バージョン 10.0 では、Analyst ツールの用語集のセキュリティに次の拡張機能が追加されています。

用語集のセキュリティのユーザーインタフェース

用語集のセキュリティ ワークスペースビューに、ロール、ユーザー、およびグループの数が表示されます。

権限と特権ウィザード

用語集のセキュリティ ワークスペースで、ウィザードを使用してユーザーに権限または特権を追加するとき、カテゴリまたはタイプに基づいて用語集アセットをソートできます。また、ユーザーのすべてのアセットに対して、読み取りおよび書き込み権限を一括割り当てできるようになりました。

アセットビュー

バージョン 10.0 では、アセットビューに添付ファイルの数およびアセットを含む用語集の名前も表示されます。

詳細については、『*Informatica 10.0 Business Glossary ガイド*』の「Business Glossary について」を参照してください。

デフォルトの承認者

バージョン 10.0 では、サービス管理者は、用語集のデフォルトの承認者を設定できます。サービス管理者が指定するデフォルトの承認者だけが、通常の承認プロセス中に通知を受信したり、進められた承認ワークフロー中にレベル 1 の投票に参加したりできます。

詳細については、『*Informatica 10.0 Business Glossary ガイド*』の「用語集の管理」を参照してください。

コマンドラインプログラム

ここでは、バージョン 10.0 の新規および変更されたコマンドについて説明します。

infacmd bg コマンド

以下の表に、新しい infacmd bg コマンドの説明を示します。

コマンド	説明
upgradeRepository	モデルリポジトリ内の Business Glossary データをアップグレードします。ドメインをアップグレードした後にこのコマンドを実行します。

infacmd dis コマンド

以下の表に、新しい infacmd dis コマンドの説明を示します。

コマンド	説明
addParameterSetEntries	アプリケーションとしてデプロイされたマッピングまたはワークフローのパラメータセットにエンTRIESを追加します。
deleteParameterSetEntries	アプリケーションとしてデプロイされたマッピングまたはワークフローのパラメータセットからエンTRIESを削除します。特定のパラメータセットエンTRIESまたはすべてのパラメータセットエンTRIESを削除することができます。
listApplicationObjects	アプリケーションに含まれるオブジェクトを一覧表示します。
listComputeOptions	計算ロールのあるノードに対するデータ統合サービスのプロパティを一覧表示します。
listParameterSetEntries	パラメータセット内のエンTRIESを一覧表示します。
listParameterSets	アプリケーション内のパラメータセットを一覧表示します。
updateComputeOptions	計算ロールのあるノードに対するデータ統合サービスのプロパティを更新します。特定の計算ノードに対するデータ統合サービスのプロパティをオーバーライドするコマンドを使用してください。
updateParameterSetEntries	アプリケーション内のマッピングまたはワークフローに対するパラメータセットに含まれるエンTRIESを更新します。更新するパラメータの名前と値のペアをスペースで区切って入力します。
stopBlazeService	Blaze エンジンのコンポーネントの作動を停止します。

以下の表に、infacmd dis コマンドオプションの変更内容を示します。

コマンド	説明
UpdateServiceOptions	<p>次のオプションが、メモリ割り当て用に追加されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> - MappingServiceOptions.MaxMemPerRequest - ProfilingServiceOptions.MaxMemPerRequest - SQLServiceOptions.MaxMemPerRequest - WSServiceOptions.MaxMemPerRequest <p>これらのオプションを使用して、データ統合サービスがマッピング、プロファイル、SQL サービス、または Web サービス要求に割り当てるメモリの最大量をバイト単位で指定します。</p> <p>次のオプションが、ワークフロー操作用に追加されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> - Modules.WorkflowOrchestrationService <p>このオプションを使用して、ワークフローを実行するモジュールを有効または無効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> - WorkflowOrchestrationServiceOptions.DBName <p>このオプションを使用して、ワークフローのランタイムメタデータを保存するデータベースの接続名を指定します。</p> <p>ExecutionOptions.OutOfProcessExecution オプションは次の値に設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - IN_PROCESS。データ統合サービスプロセスでジョブを実行します。 - OUT_OF_PROCESS。ローカルノードの個別の DTM プロセス内でジョブを実行します。 - OUT_OF_PROCESS_REMOTE。リモートノードの個別の DTM プロセス内でジョブを実行します。 <p>以前は、このオプションを true (IN_PROCESS) または false (OUT_OF_PROCESS) に設定していました。</p> <p>次のオプションは、UpdateServiceProcessOptions コマンドから UpdateServiceOptions コマンドに移動しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> - ExecutionOptions.MaxExecutionPoolSize - ExecutionOptions.MaxMemorySize - ExecutionOptions.MaxMappingParallelism - ExecutionOptions.DisHadoopPrincipal - ExecutionOptions.DisHadoopKeytab - ExecutionOptions.TemporaryDirectories - ExecutionOptions.DisHomeDirectory - ExecutionOptions.CacheDirectory - ExecutionOptions.SourceDirectory - ExecutionOptions.TargetDirectory - ExecutionOptions.RejectFilesDirectory - ExecutionOptions.HadoopInfaHomeDir - ExecutionOptions.HadoopDistributionDir - ExecutionOptions.DisHadoopDistributionDir <p>次の電子メールサーバーオプションは、スコアカード通知に対して isp UpdateSMTPOptions に移動しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> - EmailServerOptions.SMTPServerHost - EmailServerOptions.SMTPServerPort - EmailServerOptions.SMTPServerUser - EmailServerOptions.SMTPServerPassword - EmailServerOptions.SenderEmailId <p>次の電子メールサーバーオプションは、スコアカード通知に対して削除されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> - EmailServerOptions.SMTPSwitchAuthenticationOn - EmailServerOptions.SMTPSwitchTLSOn - EmailServerOptions.SMTPSwitchSSLon <p>次の電子メールサーバーオプションは、ワークフロー通知に対して es UpdateSMTPOptions コマンドに移動しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> - EmailServerOptions.SMTPServerHost

コマンド	説明
	<ul style="list-style-type: none"> - EmailServerOptions.SMTPServerPort - EmailServerOptions.SMTPServerUser - EmailServerOptions.SMTPServerPassword - EmailServerOptions.SMTPSwitchAuthenticationOn - EmailServerOptions.SenderEmailId - EmailServerOptions.SMTPSwitchTLSOn - EmailServerOptions.SMTPSwitchSSLOn <p>次の電子メールサーバーオプションは削除されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> - EmailServerOptions.SMTPServerConnectionTimeout - EmailServerOptions.SMTPServerCommunicationTimeout <p>次のオプションは、ワークフロー操作に対して削除されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> - HumanTaskServiceOptions.HTConnectionName - Modules.HumanTaskService - Modules.WorkflowService - WorkflowServiceOptions.HTDataIntegrationServiceName
UpdateServiceProcessOptions	ExecutionOptions.MaxSessionSize オプションは廃止されています。残りの実行オプションは UpdateServiceOptions に移動しました。

infacmd es コマンド

新しい infacmd es プログラムでは電子メールサービスを管理します。

以下の表に、新しい infacmd es コマンドの説明を示します。

コマンド	説明
ListServiceOptions	電子メールサービスに対して設定されたプロパティの一覧を返します。
UpdateServiceOptions	電子メールサービスのプロパティを更新します。
UpdateSMTPOptions	電子メールサービスの電子メールサーバープロパティを更新します。

infacmd hts コマンド

いずれの infacmd hts コマンドも現在は使われていません。

以下の表に、現在使われていない `infacmd hts` コマンドの説明、およびバージョン 10.0 で同様のアクションを実行するときに使用するコマンドを示します。

コマンド	説明
CreateDB	ヒューマンタスクのランタイムメタデータを保存するデータベーステーブルを作成します。 バージョン 10.0 では、ワークフローに対するすべてのランタイムメタデータが共通のテーブルのセットに保存されます。ワークフローメタデータテーブルを作成するには <code>infacmd wfs CreateTables</code> を使用します。
DropDB	ヒューマンタスクのランタイムメタデータを保存するデータベーステーブルをドロップします。 バージョン 10.0 では、ワークフローに対するすべてのランタイムメタデータが共通のテーブルのセットに保存されます。ワークフローメタデータテーブルをドロップするには <code>infacmd wfs DropTables</code> を使用します。
終了	ヒューマンタスクを停止し、タスクに関連付けられているレコードをワークフローの次のステージに渡します。 ヒューマンタスクを停止し、タスクに関連付けられているレコードをワークフローの次のステージに渡すには <code>infacmd wfs BulkComplete</code> を使用します。

infacmd isp コマンド

以下の表に、新しい `infacmd isp` コマンドの説明を示します。

コマンド	説明
GetSystemLogDirectory	システムログディレクトリを印刷します。
ListNodeRoles	ドメイン内のノードのすべてのロールを一覧表示します。
UpdateNodeRole	ドメイン内のノードのロールを更新します。ノードのサービスロールまたは計算ロールを有効または無効にすることができます。

以下の表に、`infacmd isp` コマンドオプションの変更内容を示します。

コマンド	説明
AddDomainNode	次のオプションが追加されました。 - EnableServiceRole - EnableComputeRole これらのオプションを使用して、ノードをドメインに追加したときに、ノード上にあるサービスロールまたは計算ロールを有効にします。
AddNodeResource	次のオプションが追加されました。 - ResourceCategory。このオプションを使用して、リソースが PowerCenter 統合サービス用であることを指定します。 - ResourceValue。このオプションは、将来使用するために予約されています。
CreateConnection	Hadoop 接続の接続オプションが追加されました。

コマンド	説明
DisableNodeResource、 EnableNodeResource、 ListNodeResources、 RemoveNodeResource	ResourceCategory オプションが追加されました。このオプションを使用して、リソースが PowerCenter 統合サービス用であることを指定します。
GetLog	次のサービスタイプが ServiceType オプションに追加されました。 - ES。電子メールサービス - SCH。スケジューラサービス - RMS。リソースマネージャサービス
GetNodeName	Outputfile オプションが追加されました。このオプションをファイル名およびパスと使用して、ノード名をファイルに印刷します。
ListNodes	NodeRole オプションが追加されました。このオプションを使用して、特定のロールが設定されたノードを一覧表示します。
ListServices	次のサービスタイプが ServiceType オプションに追加されました。 - ES。電子メールサービス - SCH。スケジューラサービス - RMS。リソースマネージャサービス
PurgeMonitoring	NumDaysToRetainDetailedStat オプションが追加されました。このオプションを使用して、データ統合サービスが統計をパージするときに、詳細な履歴データがモデルリポジトリ内に保持される日数を設定します。
UpdateMonitoringOptions	DetailedStatisticsExpiryTime オプションが追加されました。このオプションを使用して、データ統合サービスがモデルリポジトリから詳細な統計をいつパージするかを指定します。 valid StatisticsExpiryTime の値が変更されました。最小値は 0 です。最大値は 366 です。デフォルトは 180 です。

infacmd mrs コマンド

以下の表に、新しい infacmd mrs コマンドの説明を示します。

コマンド	説明
CheckInObject	チェックアウトされている 1 つのオブジェクトをチェックインします。オブジェクトがモデルリポジトリにチェックインされます。
CreateFolder	モデルリポジトリでプロジェクト内にフォルダを作成します。
CreateProject	デフォルトのモデルリポジトリにプロジェクトを作成します。
DeleteFolder	モデルリポジトリ内のプロジェクトからフォルダを削除します。
DeleteProject	モデルリポジトリのプロジェクトを削除します。
ListCheckedOutObjects	ユーザーがチェックアウトしたオブジェクトを一覧表示します。
ListFolders	指定したプロジェクトフォルダパス内に含まれている、すべてのフォルダの名前を一覧表示します。
ListLockedObjects	ユーザーがロックしたオブジェクトのリストを表示します。

コマンド	説明
PopulateVCS	モデルリポジトリをバージョン管理システムと同期します。
ReassignCheckedOutObject	チェックアウトされたオブジェクトの所有権を別のユーザーに再割り当てします。
RenameFolder	プロジェクト内のフォルダの名前を変更します。
UndoCheckout	モデルリポジトリオブジェクトのチェックアウトを元に戻します。
UnlockObject	ユーザーがロックしたモデルリポジトリオブジェクトをロック解除します。

以下の表に、infacmd mrs コマンドオプションの変更内容を示します。

コマンド	説明
UpdateServiceOptions	次のオプションが追加されました。 <ul style="list-style-type: none"> - VCS.Host - VCS.Port - VCS.User - VCS.Password - VCS.Type - VCS.MRSPath これらのオプションを使用して、モデルリポジトリのバージョン管理を設定します。

infacmd ms コマンド

以下の表に、新しい infacmd ms コマンドの説明を示します。

コマンド	説明
GetRequestLog	マッピングログを指定されたファイルに書き込みます。
UpgradeMappingParameterFile	Informatica の以前のバージョンで作成したパラメータファイルを、Informatica バージョン 10.0 で有効なパラメータファイルの形式に変換します。

以下の表に、更新された infacmd ms コマンドオプションの説明を示します。

コマンド	説明
RunMapping	次のオプションが追加されました。 <ul style="list-style-type: none"> - OptimizationLevel。データ統合サービスがマッピングに適用する最適化方式を制御します。 - PushdownType。データ統合サービスがマッピングに適用するプッシュダウンタイプを制御します。 - CustomProperties。Informatica グローバルスターサポートの要求により、マッピングにカスタムプロパティを定義します。

infacmd rms コマンド

新しい infacmd rms プログラムではリソースマネージャサービスを管理します。

以下の表に、新しい infacmd rms コマンドの説明を示します。

コマンド	説明
ListComputeNodeAttributes	指定されたノードまたはすべてのノードに対する、オーバーライドされた計算ノード属性を一覧表示します。
ListServiceOptions	リソースマネージャサービスのプロパティを一覧表示します。
SetComputeNodeAttributes	指定したノードの計算ノード属性をオーバーライドします。
UpdateServiceOptions	リソースマネージャサービスのプロパティを更新します。

infacmd sch コマンド

新しい infacmd sch プログラムではスケジューラサービスを管理します。

以下の表に、新しい infacmd sch コマンドの説明を示します。

コマンド	説明
CreateSchedule	1 つ以上のデプロイされたマッピングまたはワークフローオブジェクトに対するスケジュールを作成します。
DeleteSchedule	1 つ以上のスケジュールを削除します。
ListSchedule	スケジュールどおりに実行されているジョブのリストを返します。
ListServiceOptions	スケジューラサービスに設定されているプロパティのリストを返します。
ListServiceProcessOptions	スケジューラサービスプロセスに設定されているプロパティのリストを返します。
PauseAll	すべてのスケジュールを一時停止します。
PauseSchedule	1 つのスケジュールを一時停止します。
ResumeAll	すべてのスケジュールを再開します。
ResumeSchedule	スケジュールを再開します。
UpdateSchedule	1 つのスケジュール設定を更新します。
UpdateServiceOptions	スケジューラサービスのプロパティを更新します。
UpdateServiceProcessOptions	スケジューラサービスプロセスのプロパティを更新します。
アップグレード	スケジューラサービス設定をアップグレードします。

infacmd wfs コマンド

以下の表に、新しい infacmd wfs コマンドの説明を示します。

コマンド	説明
BulkComplete	ヒューマンタスクの操作を停止し、タスクに関連付けられているレコードをワークフローの次のステージに渡します。
CreateTables	ワークフローのランタイムメタデータを保存するデータベーステーブルを作成します。
DropTables	ワークフローのランタイムメタデータを保存しているデータベーステーブルをドロップします。
ListMappingPersistedOutputs	コマンドで指定されたマッピングタスクインスタンスについて、保持されている各マッピング出力の状態を一覧表示します。
SetMappingPersistedOutputs	指定したマッピングインスタンスについて、保持されている各マッピング出力を更新するか、保持されているマッピング出力に NULL 値を設定します。
UpgradeParameterFile	パラメータファイルをアップグレードして、ファイル内のパラメータ値が最新リリースで有効であることを確認します。コマンド実行時に、更新するパラメータファイルを特定し、有効なパラメータ値を含むターゲットファイルを指定します。

以下の表に、更新された infacmd wfs コマンドオプションの説明を示します。

コマンド	説明
abortWorkflow	RuntimeInstanceID オプションの名前が InstanceId に変更されました。このオプションは、強制終了するワークフローインスタンスを特定します。 Wait オプションは削除されました。
cancelWorkflow	RuntimeInstanceID オプションの名前が InstanceId に変更されました。このオプションは、キャンセルするワークフローインスタンスを特定します。 Wait オプションは削除されました。
recoverWorkflow	RuntimeInstanceID オプションの名前が InstanceId に変更されました。このオプションはリカバリするワークフローインスタンスを特定します。 Wait オプションは削除されました。
startWorkflow	ParameterSet オプションが追加されました。 このオプションで、ワークフローでランタイムに使用されるパラメータセットの名前を指定します。

infasetup コマンド

以下の表に、新しい SystemLogDirectory オプションの説明を示します。

コマンド	説明
DefineDomain DefineGatewayNode DefineWorkerNode UpdateGatewayNode UpdateWorkerNode	SystemLogDirectory オプションが追加されました。このオプションを使用して、ログのカスタムの場所を指定します。

詳細については、『*Informatica 10.0 コマンドリファレンス*』を参照してください。

接続性

ここでは、バージョン 10.0 の新しい接続機能について説明します。

PowerCenter の接続性

ここでは、バージョン 10.0 の新しい接続機能について説明します。

Microsoft SQL Server へのネイティブ接続

バージョン 10.0 では、Microsoft SQL Server の DataDirect ODBC ドライバを使用して、UNIX マシンからの Microsoft SQL Server データベースへのネイティブ接続を設定できます。

Microsoft SQL Server データベースへの接続に使用する接続プロバイダを選択できます。選択できる接続タイプは、ODBC または OLE DB です。統合サービスを有効にすれば、データソース名 (DSN) を使用して接続することもできます。また、NTLM 認証を使用して、Microsoft SQL Server に接続するユーザーを認証することもできます。

ネイティブ接続の設定の詳細については、『*Informatica 10.0 インストール&環境設定ガイド*』の付録「UNIX からのデータベースへの接続」を参照してください。

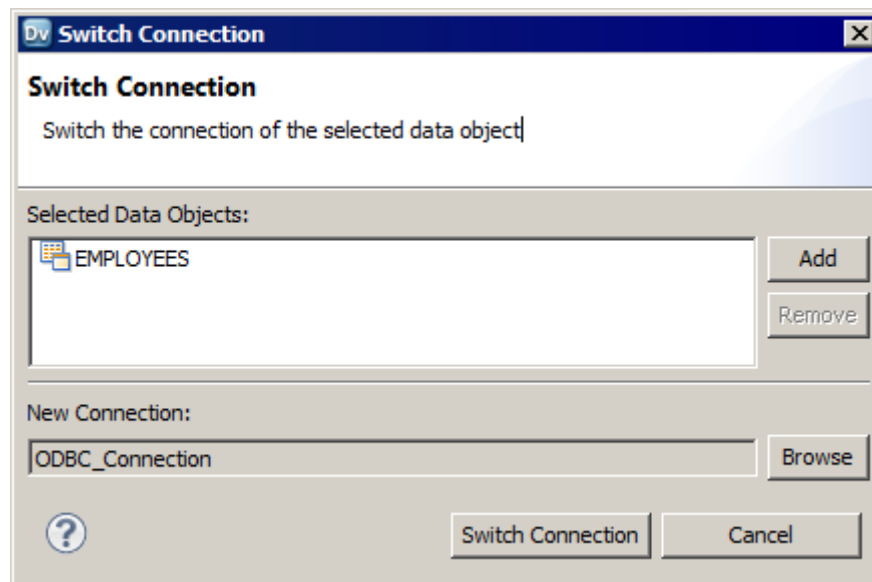
接続の切り替え

バージョン 10.0 では、Developer tool で、リレーショナルデータオブジェクトまたはカスタマイズデータオブジェクトの接続を切り替えて、別のリレーショナルデータベース接続を使用できます。接続を切り替えると、Developer tool により、データオブジェクトに基づくすべての読み取り、書き込み、およびルックアップトランスフォーメーションで、データオブジェクトの接続の詳細が更新されます。データベースを別のデータベースに移行するときに接続を切り替えたり、新しい接続を使用するために既存のマッピングを同時に更新したりできます。

接続は、次の接続タイプのいずれかに切り替えることができます。

- IBM DB2
- Microsoft SQL Server
- ODBC
- Oracle

次の図は、接続の切り替えに使用するダイアログボックスを示しています。



詳細については、『Informatica 10.0 Developer tool ガイド』の「接続」を参照してください。

データ型

ここでは、バージョン 10.0 の新しいデータ型機能について説明します。

Informatica のデータ型

ここでは、Developer tool での新しいデータ型について説明します。

Decimal データ型

バージョン 10.0 では、一部のトランスフォーメーションは、最大 38 桁の精度を持つ Decimal データ型をサポートします。Decimal データ型の精度は 1~38 桁で、位取りは 0~38 です。その他のトランスフォーメーションは、最大 28 桁の精度を持つ Decimal データ型をサポートします。

最大 38 桁精度の Decimal データ型をサポートするトランスフォーメーションでは、ターゲットに 38 桁を上回る精度が含まれ、高精度が有効になっている場合、データ統合サービスが結果を倍精度浮動小数点数として保存します。

詳細については、『Informatica 10.0 Developer tool ガイド』の付録「データ型リファレンス」を参照してください。

Decimal 38 データ型のマッピング

バージョン 10.0 では、28 桁より大きく 38 桁以下の精度を持つ、高精度モードのフィールドを含むマッピングを実行する場合、データ統合サービスは最大 38 桁の精度を処理します。アップグレード後、精度が 38 桁よりも大きい場合も、動作に変更はありません。

次の表で、適用可能な精度に基づくアップグレード後の動作について説明します。

精度	旧バージョン	10.0
28 より大きく 38 以下	Double	Decimal
38 より大きい	Double	Double

例えば、次のようなソースデータがあります。12345678901234567890123456789012345678

旧バージョンでは、ターゲットに次のデータが含まれます。1234567890123450000000000000000000000000

10.0 では、ターゲットに次のデータが含まれます。12345678901234567890123456789012345678

詳細については、『*Informatica 10.0 Developer tool ガイド*』の付録「データ型リファレンス」を参照してください。

Timestamp with Time Zone

バージョン 10.0 では、ほとんどのトランスフォーメーションが Timestamp with Time Zone データ型をサポートします。Timestamp with Time Zone は、タイムゾーンのオフセットまたはタイムゾーンのリージョン名が含まれる、Timestamp データ型のバリエーションです。

Timestamp with Time Zone データ型を Developer tool にインポートすると、関連付けられたトランスフォーメーションデータ型は timestampWithTZ になります。timestampWithTZ の精度は 36 で、位取りは 9 です。Timestamp with Time Zone の置換値の範囲は、-12:00 < UTC < +14:00 です。

詳細については、『*Informatica 10.0 Developer Tool ガイド*』の付録「データ型リファレンス」を参照してください。

Timestamp with Local Time Zone

バージョン 10.0 では、Timestamp with Local Time Zone データ型は、タイムスタンプデータの別のバリエーションです。このデータ型では、タイムゾーンデータがデータベースのタイムゾーンに正規化されます。

Timestamp with Local Time Zone データ型を Developer tool にインポートすると、関連付けられたトランスフォーメーションのデータ型が date/time になります。Timestamp with Local Time Zone データ型は Timestamp に相当するため、このデータ型はほとんどのトランスフォーメーションで暗黙的にサポートされます。

Timestamp (6) with Local Time Zone の精度は 26、位取りは 6 です。これは、date/time (29,9) トランスフォーメーションデータ型にマップされます。

詳細については、『*Informatica 10.0 Developer tool ガイド*』の付録「データ型リファレンス」を参照してください。

マニュアル

ここでは、バージョン 10.0 の Informatica のマニュアルで追加または更新されたガイドについて説明します。Informatica のマニュアルには次の新しいガイドが付属しています。

Informatica アクセシビリティガイド

バージョン 10.0 では、『*Informatica アクセシビリティガイド*』に、Informatica Administrator、Informatica Analyst、Informatica Developer のアクセシビリティ情報とキーボードショートカットが記載されています。『*Informatica アクセシビリティガイド*』は、Administrator ツール、Analyst ツール、および Developer tool のオンラインヘルプに含まれています。

詳細については、『*Informatica 10.0 アクセシビリティガイド*』を参照してください。

Informatica Big Data 管理セキュリティガイド

バージョン 10.0 では、『*Informatica Big Data 管理セキュリティガイド*』に、Big Data 管理と Hadoop のセキュリティ情報が記載されています。

以前は、Big Data と Hadoop のセキュリティ情報は、『*Informatica Big Data Edition ユーザーガイド*』に記載されていました。

次のガイドは、PowerCenter のマニュアルから削除されています。

PowerCenter データプロファイリングガイド

バージョン 10.0 では、『*PowerCenter データプロファイリングガイド*』は PowerCenter のマニュアルから削除されています。

Informatica におけるプロファイリングと検出の詳細については、『*Informatica 10.0 データ検出ガイド*』を参照してください。

Informatica Big Data Edition ユーザーガイド

バージョン 10.0 では、『*Informatica Big Data Edition ユーザーガイド*』は PowerCenter のマニュアルから削除されています。

Informatica における Big Data の詳細については、『*Informatica 10.0 Big Data 管理ユーザーガイド*』を参照してください。

Informatica Big Data Edition インストール&環境設定ガイド

バージョン 10.0 では、『*Informatica Big Data Edition インストール&環境設定ガイド*』は PowerCenter のマニュアルから削除されています。

Informatica における Big Data のインストールと環境設定の詳細については、『*Informatica 10.0 Big Data 管理のインストール&環境設定ガイド*』を参照してください。

ドメイン

ここでは、バージョン 10.0 の新しいドメイン機能について説明します。

ノード

バージョン 10.0 では、各ノードに、ノードの目的を定義するロールがあります。

ノードは次のロールを持つことができます。

サービスロール

サービスロールが指定されたノードは、アプリケーションサービスを実行できます。ノードでサービスロールを有効にすると、サービスマネージャはそのノードで実行されるように設定されたアプリケーションサービスをサポートします。

計算ロール

計算ロールが指定されたノードは、リモートアプリケーションサービスが要求する計算を実行できます。ノードで計算ロールを有効にすると、サービスマネージャはそのノードでコンテナを管理します。コンテナとは、メモリリソースと CPU リソースの割り当てのことです。アプリケーションサービスは、コンテナを使用して、ノード上でリモートで計算を実行します。例えば、データ統合サービスグリッドに、サービスロールが指定されたノード 1 と計算ロールが指定されたノード 2 が含まれているとします。ノード 1 で実行されるデータ統合サービスプロセスは、ノード 2 上のコンテナ内でマッピングを実行します。

サービスロールと計算ロール

両方のロールが指定されたノードは、アプリケーションサービスを実行できるほか、それらのサービスの計算をローカルに実行できます。

デフォルトでは、各ゲートウェイと作業ノードはサービスロールと計算ロールの両方が有効になります。ジョブを計算ロールが指定されたリモートノードで実行するように設定されているデータ統合サービスグリッドにノードが割り当てられている場合は、ノードロールを更新できます。ノードをデータ統合サービスプロセスの実行専用にするには、サービスロールだけを有効にします。ノードをデータ統合サービスマッピングの実行専用にするには、計算ロールだけを有効にします。

ノードロールの詳細については、『*Informatica 10.0 Administrator ガイド*』の章「ノード」を参照してください。

Informatica Administrator

ここでは、バージョン 10.0 の新しい Administrator 機能について説明します。

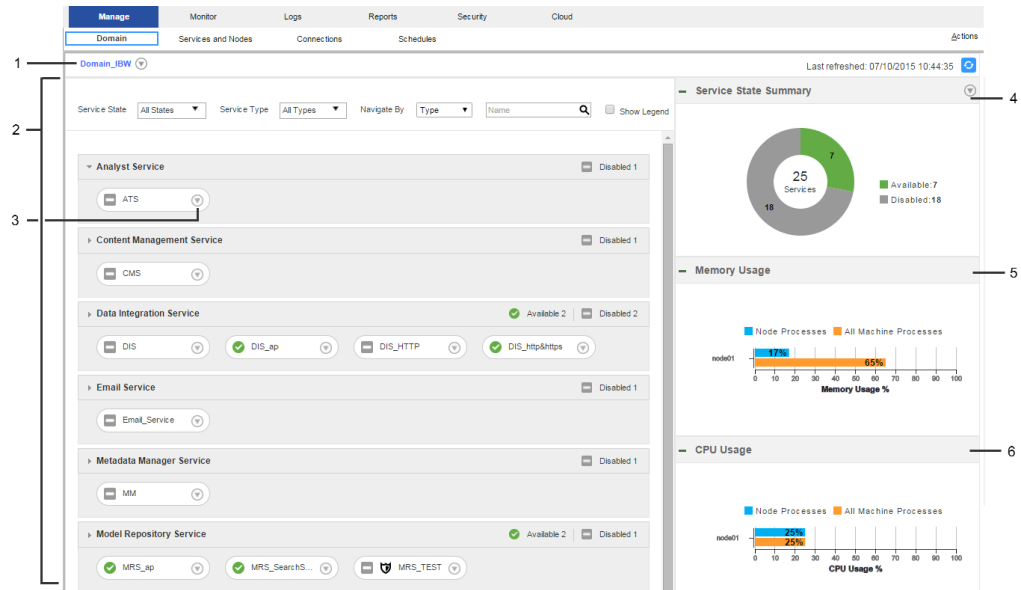
[管理] タブ

バージョン 10.0 では、[管理] タブに次の新機能が含まれます。

[ドメイン] ビュー

[ドメイン] ビューには、ドメインのステータスの概要が示されます。ドメインに関する情報の表示、ドメインに関する履歴情報の表示、一般的なアクションの実行ができます。

次の図は【管理】タブ上の【ドメイン】ビューを示しています。



1. [ドメインアクション] メニュー
2. [コンテンツ] パネル
3. [オブジェクトアクション] メニュー
4. サービスの状態の概要
5. メモリ使用状況インジケータ
6. CPU 使用量インジケータ

【ドメイン】ビューには、次の情報が含まれます。

- ドメイン。ドメインのプロパティ、ログ、および過去のイベントを表示できます。ドメインをシャットダウンすることもできます。
- [コンテンツ] パネル。ドメイン内のサービス、ノード、およびグリッドを表示します。オブジェクトのプロパティ、イベント、ログ、および依存性を表示できます。サービスの有効化、無効化、およびリサイクル、ならびにノードのシャットダウンもできます。
- フィルタ。ドメインのコンテンツを状態またはサービスタイプでフィルタリングできます。ドメインオブジェクトを検索したり、タイプ、グリッド、またはフォルダ別にドメインオブジェクトを参照することもできます。
- サービスの状態の概要。ドメイン内のサービスの数と状態を表示するドーナツグラフ。
- リソース使用状況パネル。ドメイン内のオブジェクトのメモリおよび CPU の使用量を、マシン上のすべてのプロセスのメモリおよび CPU の使用量と比較する棒グラフ。
- コマンド履歴。Administrator ツールから送信されたサービスライフサイクルコマンドが表示されます。ライフサイクルコマンドには、有効化、無効化、およびリサイクルなどがあります。
- [履歴] ビュー。選択した時間範囲における履歴ステータス、リソースの使用状況、およびドメイン内のイベントを表示します。
- [イベント] パネル。ドメイン内のサービスおよびノードのイベントを表示します。

ナビゲータ

ドメインナビゲータの【サービスとノード】ビューで、ノード、アプリケーションサービス、およびグリッドの検索とフィルタリングができます。オブジェクトを名前前で検索できます。また、ナビゲータに表示するオブジェクトのリストをオブジェクトタイプでフィルタリングすることもできます。

【スケジュール】ビュー

スケジュールの表示および管理は【スケジュール】ビューで実行できます。

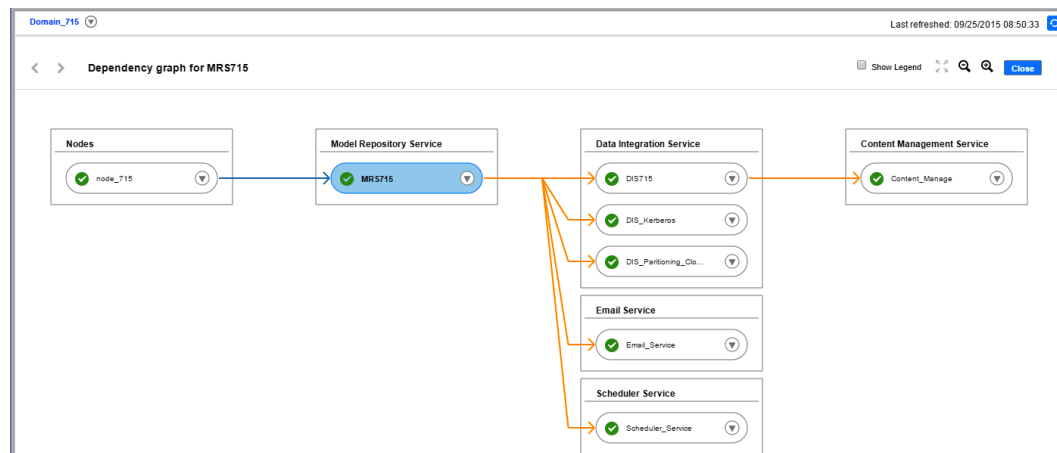
詳細については、『*Informatica 10.0 管理者ガイド*』を参照してください。

依存関係グラフ

バージョン 10.0 では、**依存関係グラフ**には、[管理] タブの【ドメイン】ビューからアクセスします。以前は、**依存関係グラフ**には、【ドメイン】タブの【サービスとノード】ビューからアクセスしていました。

依存関係グラフには、新しいユーザーインターフェースと追加機能があります。

次の図は、新しい**依存関係グラフ**を示しています。



依存関係グラフでは、次のタスクを実行できます。

- サービス、ノード、またはグリッドのプロパティを表示する。
- サービスのログを表示する。
- ノードをシャットダウンする。
- サービスを有効化または無効化する。
- サービスをリサイクルする。
- サービスのダウンストリーム依存性を無効化する。サービスに依存する 1 つ以上のサービスを無効化できます。ダウンストリームプロセスが強制終了モードで無効化されます。
- サービスのダウンストリーム依存性をリサイクルする。サービスに依存する 1 つ以上のサービスをリサイクルできます。ダウンストリームプロセスが強制終了モードでリサイクルされます。

詳細については、『*Informatica 10.0 管理者ガイド*』を参照してください。

監視

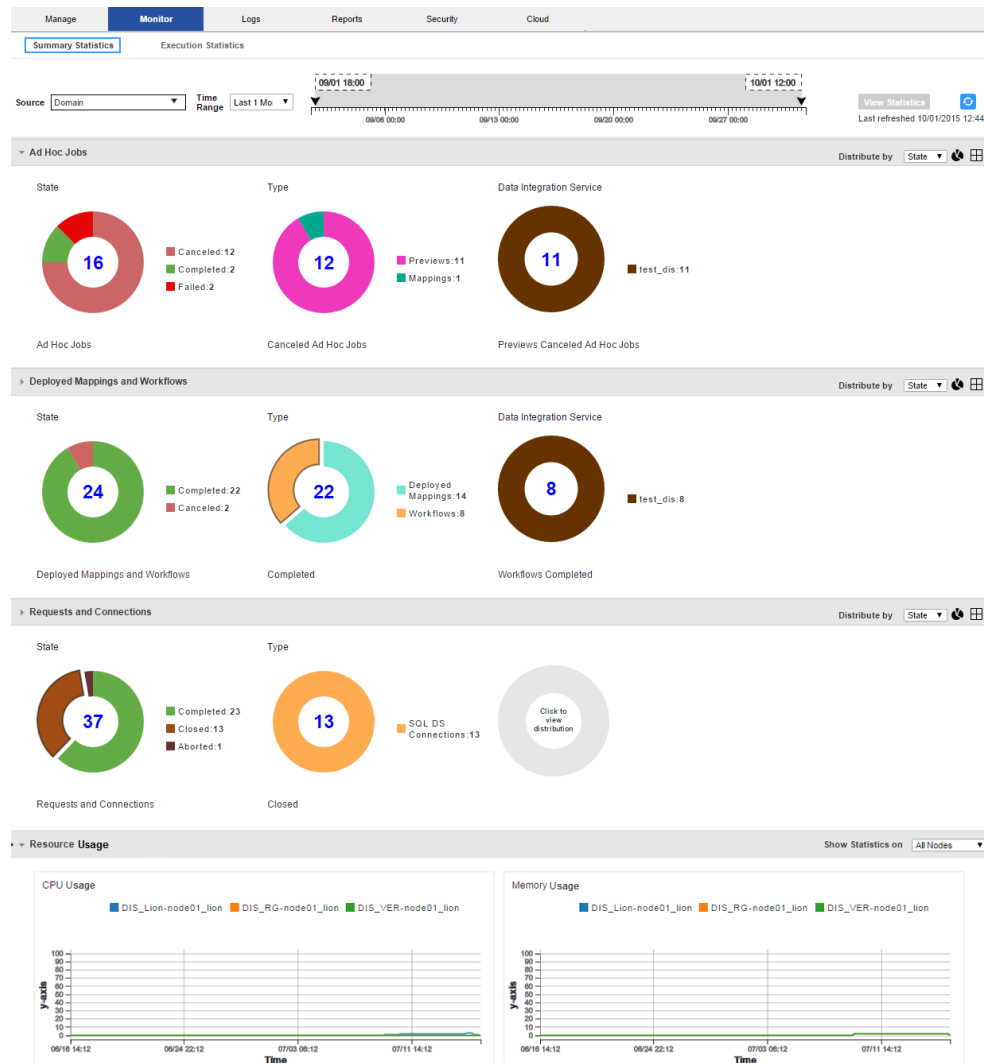
バージョン 10.0 では、Administrator ツールの【監視】タブが【モニタ】タブという名前に変更されました。

【モニタ】タブには、次の新機能があります。

【モニタ】タブのビュー

【モニタ】タブには、次のビューが含まれています。

- **【サマリ統計】** ビュー。選択した時間範囲のリソースの使用状況、オブジェクトの配布、およびオブジェクトの状態が表示されます。
次の図は、**【サマリ統計】** ビューを示しています。



- **【実行統計】** ビュー。以前のバージョンの【監視】タブにあったナビゲータとビューが含まれています。

【実行統計】ビューのビュー

ワークフローのアドホックマッピングジョブ、デプロイ済みのマッピングジョブ、およびマッピングオブジェクトに関する統計を表示できます。

[コンテンツ] パネルでこれらのオブジェクトのいずれかを選択すると、[詳細] パネルに次の新しいビューが表示されます。

- **[サマリ統計]** ビュー。ソースおよびターゲットのスループットとリソースの使用状況に関する情報が表示されます。
次の図は、マッピングジョブの **[サマリ統計]** ビューを示しています。

MappingLookup

Properties

Summary Statistics

Detailed Statistics

▼ Throughput

Source	Rows	Average Rows/Sec	Bytes	Average Bytes/Sec	First Row Accessed	Dropped Rows
Read_CUSTOMER_DE...	4001	4001	392098	392098	09/04/2015 12:30:17	0

Target	Rows	Average Rows/Sec	Bytes	Average Bytes/Sec	Rejected Rows
Write_CUSTOMER_DETAILS...	4001	4001	424106	424106	0
Write_Flat_File_Data_Object	4001	4001	16004	16004	0

▼ Resource Usage

Executing Node	node_715
Average CPU Usage	0 %
Average Memory Usage	53 MB

- **[詳細統計]** ビュー。個別のローカルプロセスで実行されるジョブのうち、その実行期間が 1 分を超えるものについて表示されます。ソースおよびターゲットのスループットとリソースの使用状況のグラフが表示されます。
次の図は、ワークフローのマッピングジョブの **[詳細統計]** ビューを示しています。



設定

[監視設定] (旧称: [グローバル設定]) には、[詳細履歴データの保持] という新しいオプションがあります。このオプションは、分単位の統計が期限切れになった場合、その統計をいつモデルリポジトリからパージするかを設定するために使用します。デフォルトは 14 です。最小値は 1 です。最大値は 14 です。

詳細については、『*Informatica 10.0 管理者ガイド*』の「監視」を参照してください。

Informatica Analyst

ここでは、バージョン 10.0 の新しい Analyst ツール機能について説明します。

アセットのバージョン管理

バージョン 10.0 では、モデルリポジトリがバージョン管理システムと統合されていると、バージョン管理システムによって、開発チームの他のメンバによる上書きからアセットが保護されます。アセットのチェックアウトとチェックイン、アセットのチェックアウトの取り消しなどを実行できます。

詳細については、『*Informatica 10.0 Analyst ツールガイド*』の「モデルリポジトリ」を参照してください。

プロファイル

ここでは、Analyst ツールのプロファイルおよびプロファイル結果の新機能について説明します。

カラムのプロファイル

バージョン 10.0 では、[ライブラリ] ワークスペースでデータオブジェクトを右クリックして、カラムプロファイルを作成できます。データオブジェクトおよびフォルダオプションは、プロファイルウィザードで自動的に更新されます。

カラムプロファイルの詳細については、『*Informatica 10.0 データ検出ガイド*』の「Informatica Analyst のカラムプロファイル」の章を参照してください。

カラムプロファイル結果

バージョン 10.0 では、カラムプロファイル結果に次の新機能と改良点が追加されています。

- サマリビューと詳細ビューにプロファイル結果が表示される。サマリビューでは、プロファイル結果の概要がグリッド形式で表示されます。詳細ビューでは、カラム固有の詳細情報が表示されます。
- サマリビューと詳細ビューにプロファイル結果の異常値が表示される。異常値とは、特定のカラムで、期待される値の範囲に収まらないパターン、値、頻度のことです。
- 最新のプロファイル実行、履歴プロファイル実行、統合済みプロファイル実行のプロファイル結果が表示される。任意の履歴プロファイル実行のプロファイル結果を表示できます。統合済みプロファイル実行を実行すると、プロファイルの各カラムについて最新の結果を表示できます。
- 2つのプロファイル実行のプロファイル結果を比較し、サマリビューおよび詳細ビューに結果を表示する。
- JSON または XML データソースでプロファイルのプロファイル結果を表示する。
- ビジネス用語、タグ、およびコメントがプロファイルおよびプロファイルのカラムに追加される。

カラムプロファイル結果の詳細については、『*Informatica 10.0 データ検出ガイド*』の「Informatica Analyst のカラムプロファイル結果」の章を参照してください。

Decimal データ型

バージョン 10.0 では、精度が最大 38 桁の Decimal データ型のカラムでプロファイルを作成できます。

詳細については、『*Informatica 10.0 データ検出ガイド*』を参照してください。

JDBC の接続

バージョン 10.0 では、JDBC 接続を IBM DB2 UDB、Microsoft SQL Server、および Oracle データベースタイプのプロファイリングウェアハウス接続として指定できます。JDBC 接続をプロファイリングウェアハウス接続として使用して、カラムプロファイル、ルールプロファイル、ドメイン検出、およびスコアカードを作成できます。

詳細については、『*Informatica 10.0 インストール & 環境設定ガイド*』を参照してください。

オブジェクトのバージョン管理

バージョン 10.0 では、モデルリポジトリがバージョン管理システムと統合されている場合、バージョン管理システムにより、開発チームの他のメンバによってオブジェクトが上書きされることを防止できます。プロファイルのチェックアウトおよびチェックイン、プロファイルのチェックアウトの取り消し、プロファイルの履歴バージョンの表示およびリストアを行うことができます。

オブジェクトのバージョン管理の詳細については、『*Informatica 10.0 データ検出ガイド*』の「Informatica Analyst のカラムプロファイル」の章を参照してください。

ルールおよびフィルタ

バージョン 10.0 では、カラムプロファイルの作成時にルールおよびフィルタを追加または編集できます。

詳細については、『*Informatica 10.0 データ検出ガイド*』を参照してください。

スコアカードフィルタ

バージョン 10.0 では、フィルタを作成して、スコアカードのメトリックに適用できます。

スコアカードフィルタの詳細については、『*Informatica 10.0 データ検出ガイド*』の「Informatica Analyst のスコアカード」の章を参照してください。

Informatica Developer

ここでは、バージョン 10.0 の新しい Informatica Developer 機能について説明します。

DDL の生成と実行

Informatica 10.0 では、DDL スクリプトを生成、実行して、データベース内にテーブルを作成できます。Developer tool を使用すると、モデルリポジトリ内の 1 つ以上のリレーショナルデータオブジェクトに対して DDL スクリプトを生成し、その DDL スクリプトを実行して、ターゲットデータベースでテーブルを作成または置換できます。データベースにターゲットがすでに存在する場合は、そのターゲットを削除して再作成できます。

詳細については、『*Informatica Developer tool ガイド*』の「物理データオブジェクト」を参照してください。

実行時のリレーショナルメタデータおよびフラットファイルメタデータの生成

バージョン 10.0 では、データソースに対するメタデータ変更を許可する、動的なソースとターゲットを含むマッピングを作成できます。ソースまたはターゲットが動的になるように設定すると、データ統合サービスは、リレーショナルデータソースおよびフラットファイルデータソースに対するメタデータ変更を実行時に解釈できます。

データ統合サービスは、次の機能を実行できます。

- カラムの順序が物理データオブジェクトのカラムの順序とは異なるソースから、データを読み取ります。
- 物理データオブジェクトに存在しないソース内の追加カラムからデータを読み取ります。
- ソースには存在しないが物理データオブジェクトには存在するカラムのデータを無視します。

リレーショナルデータソースの場合、データ統合サービスはデータベーススキーマから直接メタデータ変更を取得します。

フラットファイルデータソースの場合、データ統合サービスが、データファイルヘッダ、コントロールファイルからメタデータ変更を取得するように、またはデータソース内のカラムからメタデータ変更を自動的に取得するように、フラットファイルデータオブジェクトを設定する必要があります。フラットファイルデータオブジェクトの【詳細】タブで、**ランタイムカラム名の生成** プロパティを設定します。

マッピングを開発するときは、実行時にデータソースから直接データオブジェクトカラムを取得するように、読み取りおよび書き込みトランスフォーメーションを設定します。ルックアップソースから直接データオブジェクトカラムを取得するように、ルックアップトランスフォーメーションを設定することもできます。トランスフォーメーションの【データオブジェクト】タブで、**実行時に、データソースからデータオブジェクトのカラムを取得します** を選択します。

詳細については、『*Informatica 10.0 Developer マッピングガイド*』の「動的マッピング」を参照してください。

PowerCenter からのインポート

バージョン 10.0 では、次の PowerCenter トランスフォーメーションを Developer tool にインポートできます。

- ノーマライザトランスフォーメーション
- シーケンスジェネレータトランスフォーメーション
- アップデートストラテジトランスフォーメーション

詳細については、『*Informatica 10.0 Developer マッピングガイド*』を参照してください。

Monitoring ツール

バージョン 10.0 では、Monitoring ツールに次の新機能があります。

【実行統計】ビュー

バージョン 9.6.1 の Monitoring ツールにあったナビゲータとビューが含まれています。

【サマリ統計】ビュー

選択した時間範囲のリソースの使用状況、オブジェクトの配布、およびオブジェクトの状態が表示されます。

【実行統計】ビューのビュー

【実行統計】ビューでは、ワークフローのアドホックマッピングジョブ、デプロイ済みのマッピングジョブ、およびマッピングオブジェクトに関する詳細な情報を確認できます。[コンテンツ] パネルでこれらのオブジェクトのいずれかを選択すると、[詳細] パネルに次の新しいビューが表示されます。

- **【サマリ統計】ビュー。**ソースおよびターゲットのスループットとリソースの使用状況に関する情報が表示されます。

次の図は、マッピングジョブの【サマリ統計】ビューを示しています。

MappingLookup

Properties

Summary Statistics

Detailed Statistics

▼ Throughput

Source	Rows	Average Rows/Sec	Bytes	Average Bytes/Sec	First Row Accessed	Dropped Rows
Read_CUSTOMER_DE...	4001	4001	392098	392098	09/04/2015 12:30:17	0

Target	Rows	Average Rows/Sec	Bytes	Average Bytes/Sec	Rejected Rows
Write_CUSTOMER_DETAILS...	4001	4001	424106	424106	0
Write_Flat_File_Data_Object	4001	4001	16004	16004	0

▼ Resource Usage

Executing Node	node_715
Average CPU Usage	0 %
Average Memory Usage	53 MB

- **【詳細統計】ビュー。**ソースおよびターゲットのスループットとリソースの使用状況のグラフが表示されます。個別のローカルプロセスで実行されるジョブのうち、その実行期間が1分を超えるものについて表示されます。

次の図は、ワークフローのマッピングジョブの【詳細統計】ビューを示しています。



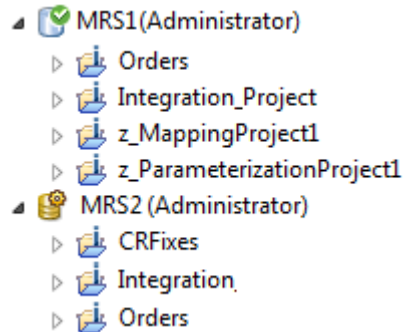
詳細については、『*Informatica 10.0 Developer tool ガイド*』の章「データの表示」を参照してください。

オブジェクトのバージョン管理

バージョン 10.0 では、モデルリポジトリをバージョン管理システムに統合すると、開発チームの他のメンバがオブジェクトを上書きすることを防止できます。オブジェクトのチェックアウトとチェックイン、オブジェクトのチェックアウトの取り消し、およびオブジェクトの履歴バージョンの表示とリストアップが可能です。

Developer tool では、バージョン管理されたモデルリポジトリは、緑色のチェックマークがついた白色のアイコンで示されます。

次の図は、バージョン管理システムと統合された MRS1 と、統合されていない MRS2 の、2 つの接続されたリポジトリを示しています。



詳細については、『*Informatica 10.0 Developer tool ガイド*』の章「モデルリポジトリ」を参照してください。

アプリケーションの物理データオブジェクト

バージョン 10.0 では、アプリケーションに物理データオブジェクトを追加できます。

詳細については、『*Informatica 10.0 Developer tool ガイド*』の章「アプリケーションデプロイメント」を参照してください。

プロファイル

ここでは、Developer tool のプロファイルおよびプロファイル結果の新機能について説明します。

JSON および XML データソースを使用したカラムプロファイル

バージョン 10.0 では、次の方法を使用して、JSON および XML データソースでカラムプロファイルを作成できます。

- フラットファイル。この方法では、テキストファイルを作成して、JSON または XML ファイルソースの場所をファイルに追加する必要があります。テキストファイルを使用して、フラットファイルデータオブジェクトを作成します。フラットファイルデータオブジェクトでカラムプロファイルを作成します。
- 複合ファイルリーダー。この方法では、JSON または XML ソースファイルで複合ファイルデータオブジェクトを作成して、複合ファイルデータオブジェクトでカラムプロファイルを作成します。
- HDFS の JSON または XML ファイル。この方法では、HDFS との接続を作成して、HDFS の JSON または XML ファイルで複合ファイルデータオブジェクトを作成する必要があります。複合ファイルデータオブジェクトを使用してカラムプロファイルを作成できます。
- フォルダの JSON または XML ファイル。この方法では、すべての JSON または XML ファイルを 1 つのフォルダに統合する必要があります。HDFS との接続を作成して、フォルダで複合ファイルデータオブジェクトを作成します。複合ファイルデータオブジェクトでカラムプロファイルを作成できます。

JSON および XML データソースを使用したカラムプロファイルの詳細については、『*Informatica 10.0 データ検出ガイド*』の「データオブジェクトプロファイル」の章を参照してください。

Decimal データ型

バージョン 10.0 では、精度が最大 38 桁の Decimal データ型のカラムでプロファイルを作成できます。

詳細については、『*Informatica 10.0 データ検出ガイド*』を参照してください。

外部キーのキューレーション

バージョン 10.0 では、推測されるカラムのリレーションを拒否すると、関連付けられたすべてのリレーションも拒否されます。

キューレーションの詳細については、『*Informatica 10.0 データ検出ガイド*』の「エンタープライズ検出結果」の章を参照してください。

JDBC の接続

バージョン 10.0 では、JDBC 接続を IBM DB2 UDB、Microsoft SQL Server、および Oracle データベースタイプのプロファイリングウェアハウス接続として指定できます。JDBC 接続を使用して、カラムプロファイル、ルールプロファイル、ドメイン検出、およびスコアカードを作成できます。

詳細については、『*Informatica 10.0 インストール & 環境設定ガイド*』を参照してください。

オブジェクトのバージョン管理

バージョン 10.0 では、モデルリポジトリがバージョン管理システムと統合されている場合、バージョン管理システムにより、開発チームの他のメンバによってオブジェクトが上書きされることを防止できます。プロファイルのチェックアウトおよびチェックイン、プロファイルのチェックアウトの取り消し、プロファイルの履歴バージョンの表示およびリストアを行うことができます。

オブジェクトのバージョン管理の詳細については、『*Informatica 10.0 データ検出ガイド*』の「Informatica Developer のプロファイル」の章を参照してください。

Informatica Development Platform

ここでは、Informatica Development Platform の新機能および改良点について説明します。

Informatica コネクタツールキット

バージョン 10.0 では、Informatica コネクタツールキットの次の機能を使用できます。

Java データ型

ネイティブデータ型を Java データ型にマップできます。ネイティブデータ型をマップする場合、データソースから読み取る最適な Java データ型を選択し、ターゲットデータベースまたはアプリケーションに書き込む最適なネイティブデータ型を選択します。

複数のネイティブメタデータオブジェクト

アダプタに複数のネイティブメタデータオブジェクトを定義できます。例えば、リレーショナルデータソースのテーブル、ビュー、およびシノニムに異なるネイティブメタデータオブジェクトを作成できます。

SORT および SELECT

アダプタが特定の順序でデータソースからデータを取得するための SORT 文のサポートを定義できます。アダプタがデータソースから読み取る際に SELECT 文をサポートするかどうかを定義できます。Informatica コネクタツールキットを使用して、アダプタに次の SELECT 文を定義できます。

- すべて選択
- 任意選択
- 個別選択
- 最初の行の選択
- 最後の行の選択

パーティション

パーティションタイプを指定し、アダプタがデータを読み取るまたは書き込むときに使用するパーティションロジックを実装できます。

次のいずれかまたはすべてのパーティションタイプをアダプタに指定できます。

- 動的。データ統合サービスは、実行時にデータソースのパーティション情報に基づいてパーティションの数を決定します。
- 静的。データ統合サービスは、ユーザーが指定したパーティションの数やキー範囲パーティションなどのパーティション情報に基づいてパーティション化ロジックを決定します。

パラメータ化

ネイティブメタデータオブジェクトの読み取りおよび書き込み機能の属性でサポートされるパラメータ化（すべてのパラメータ化または部分的なパラメータ化）を指定できます。ネイティブメタデータオブジェクトの読み取りおよび書き込み機能の属性には、実行時に値またはパラメータを割り当てることができます。

データ操作の前後

読み取りまたは書き込み操作の前後に実行できる完了前タスクおよび完了後タスクを実装できます。例えば、書き込み操作の前にターゲットテーブルを切り詰める機能を実装できます。

メッセージ

メッセージを作成して、アダプタの設計時または実行時に発生する例外を処理できます。メッセージウィザードを使用して、メッセージを追加、編集、または削除できます。必要に応じて、メッセージファイルをローカライズできます。

C ランタイム

アダプタの実行時の動作は C 言語で実装できます。C 言語でコードを作成して、データソースに対するアダプタの読み取りおよび書き込み動作を定義できます。

Informatica Cloud のサポート

コネクタを Informatica Cloud にパブリッシュするためのコネクタパッケージをエクスポートできます。

詳細については、『*Informatica Development Platform 10.0 Informatica コネクタツールキット Developer ガイド*』を参照してください。

マッピング

ここでは、バージョン 10.0 の新しいマッピング機能について説明します。

Informatica マッピング

ここでは、バージョン 10.0 の新しいマッピング機能について説明します。

動的マッピング

バージョン 10.0 では、ソース、ターゲット、トランスフォーメーションロジックを、定義したパラメータおよびルールに基づいて実行時に変更するように、動的マッピングを設定できます。トランスフォーメーションが受信するポート、トランスフォーメーションロジックで使用するポート、トランスフォーメーショングループ間で確立するリンクを設定できます。動的マッピングにより、データソースに対する頻繁なメタデータの変更を管理したり、スキーマが異なる各データソースのマッピングロジックを再利用したりすることができます。

動的マッピングには、設定可能な次の機能が含まれています。

- 動的ソースを使用すると、実行時にフラットファイルおよびリレーショナルソース内のメタデータを変更できます。フラットファイルまたはリレーショナルソース内のメタデータが変更されると、読み取りおよびルックアップトランスフォーメーションは、実行時に、データオブジェクトのカラムを動的ソースから直接取得できます。
- トランスフォーメーションには、定義したルールに基づいて変更可能なカラムを受信する動的ポートを含めることができます。動的ポートで、カラムを含めるルールまたは除外するルールを定義できます。次のトランスフォーメーションには動的ポートを含めることができます。
 - アグリゲータ
 - 式
 - フィルタ
 - ジョイナ
 - ルックアップ
 - ランク
 - ルータ
 - シーケンスジェネレータ
 - ソータ
 - アップデートストラテジ
- ジョイナトランスフォーメーション、ルックアップトランスフォーメーション、および式トランスフォーメーションでポートセレクトを定義できます。ポートセレクトは、トランスフォーメーションロジックで参照できる、ポートの順序リストです。トランスフォーメーションに移動するポートをフィルタリングして、結合条件、ルックアップ条件、または動的式でポートを参照するように、ポートセレクトを設定します。
- 動的式は、式トランスフォーメーションで定義できます。動的式は、結果を動的出力ポートに返します。動的式で、ポートセレクトまたは動的ポートを参照できます。動的ポートまたはポートセレクトを参照すると、動的ポートまたはポートセレクトの各ポートで 1 回、動的式が実行されます。式トランスフォーメーションは、式インスタンスごとに個別の出力ポートを生成します。
- 動的ターゲットを使用すると、実行時に、フラットファイルおよびリレーショナルターゲットのカラムを定義できます。書き込みトランスフォーメーションは、関連付けられたデータオブジェクトまたはマッピングフローに基づいて、実行時にターゲットのカラムを生成できます。リレーショナルターゲットである書き込みトランスフォーメーションは、実行時にテーブルの作成や置換を行うこともできます。
- トランスフォーメーションは、実行時に接続するポートをポリシーまたはパラメータに基づいて決定する、グループ間のリンクを持つことができます。
- ソースとターゲット、ポートのルール、およびトランスフォーメーションプロパティは、パラメータに基づいて実行時に変更できます。

動的マッピングの詳細については、『*Informatica 10.0 Developer マッピングガイド*』の「動的マッピング」を参照してください。

マッピング出力

バージョン 10.0 では、マッピングの実行から集計値を返すマッピング出力を作成できます。マッピング出力は、マッピングで処理される各行のフィールド値または式の集計結果です。

例えば、トランスフォーメーションが受け取るソース行から注文フィールドの合計金額を集計するマッピング出力を設定できます。マッピング出力の値をレジスタで保持することができます。保持されているマッピング出力の値は、マッピングタスクの入力パラメータに割り当てることができます。また、マッピング出力をワークフロー変数に割り当てることができます。

マッピング出力はマッピングの【出力】ビューで作成します。マッピングの式トランスフォーメーションで集計の式を定義します。

詳細については、『*Informatica 10.0 Developer マッピングガイド*』を参照してください。

マッピングタスクの入力

バージョン 10.0 では、保持されているマッピング出力を、同じマッピングタスクの入力パラメータに割り当てることができます。保持されているマッピング出力とは、データ統合サービスが前のワークフロー実行からリポジトリに保存した値です。例えば、前のワークフロー実行から最後の注文の日付を保持することができます。マッピングタスクの【入力】ビューでは、保持されている値を入力パラメータに割り当てることができます。入力パラメータをフィルタ式に含めると、最後の日付以前の行がスキップされます。

詳細については、『*Informatica 10.0 Developer ワークフローガイド*』の「マッピングタスク」を参照してください。

マッピングタスクの出力

バージョン 10.0 では、マッピング出力をワークフロー変数に割り当てることができます。現在のユーザー定義のマッピング出力およびユーザー定義の永続的なマッピング出力をワークフロー変数に割り当てます。現在の値は、実行中のワークフローでマッピングタスクによって生成された値です。保持されているマッピング出力は、前の実行からリポジトリに保持された値です。また、システム定義のマッピング出力をワークフロー変数に割り当てることも可能です。マッピングタスクの【出力】ビューでマッピング出力をワークフロー変数に割り当てます。

詳細については、『*Informatica 10.0 Developer ワークフローガイド*』の「マッピングタスク」を参照してください。

最適化方式

Informatica バージョン 10.0 では、最適化方式に関して次の新機能が利用できます。

グローバル述部最適化方式

データ統合サービスでは、グローバル述部最適化方式を適用できます。グローバル述部最適化方式を適用する場合、データ統合サービスは、マッピングのフィルタを分割、移動、削除、または簡素化します。データ統合サービスにより、パイプライン内のソースに可能な限り近くなるようにデータがフィルタリングされます。また、マッピングで生成される述部式の推論も行います。

詳細については、『*Informatica 10.0 パフォーマンス調整ガイド*』の章「マッピングの最適化」を参照してください。

プッシュダウンの最適化方式

ソースデータベースにトランスフォーメーションロジックをプッシュするには、プッシュダウンタイプを選択する必要があります。ソースデータベースに対して、トランスフォーメーションロジックをプッシュダウンしない、その一部をプッシュダウンする、またはそのすべてをプッシュダウンすることを選択できます。プッシュダウンタイプのマッピング最適化プランを確認することもできます。

マッピングに更新方式トランスフォーメーションが含まれている場合は、プッシュダウンの最適化を設定する前に、マッピングのプッシュダウン互換性を確認する必要があります。

詳細については、『*Informatica 10.0 開発者マッピングガイド*』の章「プッシュダウンの最適化」を参照してください。

データシップ結合最適化方式

異なるデータベース内にある 2 つの異なるサイズのテーブルのデータをマッピングで結合する必要がある場合、データ統合サービスはデータシップ結合最適化方式を適用できます。

詳細については、『*Informatica 10.0 パフォーマンス調整ガイド*』の章「マッピングの最適化」を参照してください。

マッピング最適化プラン

マッピング最適化プランでは、最適化方式がマッピングのパフォーマンスに与える影響を確認できます。

詳細については、『*Informatica 10.0 パフォーマンス調整ガイド*』の「マッピングの最適化」の章を参照してください。

パラメータ

Informatica バージョン 10.0 では、パラメータに関して次の新機能が利用できます。

パラメータの使用

パラメータを使用して、接続、SQL ステートメント、Sort By および Group By ポートリスト、式変数、ランタイム環境などのプロパティを追加で指定できます。

パラメータタイプ

動的マッピングにおいて、式、入力リンクセット、ポート、ポートリスト、リソース、およびソートリストの各パラメータタイプを使用できます。

マッピング、マップレットおよびトランスフォーメーション間でのパラメータのバインド

【**パラメータ**】 タブの 【**インスタンス値**】 カラムで、マッピングパラメータをマップレットパラメータまたはトランスフォーメーションパラメータにバインドできます。また、マップレットパラメータをトランスフォーメーションパラメータにバインドすることも可能です。

パラメータを別のパラメータにバインドすると、実行時、そのパラメータにより別のパラメーターがオーバーライドされます。既存のパラメータからマッピングまたはマップレットパラメータを作成し、それらのパラメーターをバインドする操作は、1 回の手順で行えます。オーバーライドするパラメータの 【**マッピングパラメータとして公開**】 オプションまたは 【**マップレットパラメータとして公開**】 オプションをクリックします。

マッピングからのパラメータを、読み取りまたは書き込み論理データオブジェクトマッピングのパラメータにバインドすることが可能です。

パラメータセット

ワークフローまたはマッピング用のパラメータセットを定義できます。パラメータセットとは、一連のパラメータとその値を含んだモデルリポジトリ内のオブジェクトで、実行時に使用します。パラメータセットは、マッピング、マッピングタスク、またはワークフローで使用します。アプリケーションをデプロイする場合、アプリケーションに 1 つ以上のパラメータセットを追加できます。複数のアプリケーションに 1 つのパラメータセットを追加し、デプロイすることができます。

ランタイム環境パラメータ

パラメータを使用してランタイム環境を設定できます。文字列パラメータをマッピングレベルで設定します。デフォルト値は 【**ネイティブ**】 または 【**Hadoop**】 に設定します。マッピング用のランタイム環境を選択するときには、【**パラメータの割り当て**】 をクリックし、設定したパラメータを選択します。

パラメータの詳細については、『*Informatica 10.0 開発者マッピングガイド*』の章「マッピングパラメータ」を参照してください。

パーティション化されたマッピング

Informatica バージョン 10.0 では、パーティション化されたマッピングに関して、次の新機能が利用できません。

パーティション化されたトランスフォーメーション

追加のトランスフォーメーションでパーティション化がサポートされます。パーティション化に対応したマッピングに次のトランスフォーメーションが含まれている場合、データ統合サービスは、複数のスレッドを使用してデータを変換できます。

- アドレスバリデータ
- 大文字小文字変換プログラム
- 分類子
- 比較
- データマスキング
- データプロセッサ
- ディシジョン
- キージェネレータ
- ラベラ
- 一致（識別子の一致分析に対応するように設定されている場合）
- マージ
- ノーマライザ
- パーサー
- シーケンスジェネレータ
- ソータ
- 標準化
- 加重平均

キャッシュのパーティション化

アグリゲータ、ジョイナ、またはランクトランスフォーメーションの場合、トランスフォーメーションのキャッシュパーティション化中のパフォーマンスが最適化されるように複数のキャッシュディレクトリを設定できます。管理者がデータ統合サービス用に複数のキャッシュディレクトリを設定している場合は、CacheDir システムパラメータのデフォルト値を使用できます。CacheDir システムパラメータのデフォルト値をオーバーライドし、トランスフォーメーションに固有の複数のキャッシュディレクトリを設定することもできます。

ソータトランスフォーメーションの場合、トランスフォーメーションのキャッシュパーティション化中のパフォーマンスが最適化されるように複数の作業ディレクトリを設定できます。管理者がデータ統合サービス用に複数の一時ディレクトリを設定した場合は、TempDir システムパラメータのデフォルト値を使用できます。TempDir システムパラメータのデフォルト値をオーバーライドし、トランスフォーメーションに固有の複数のディレクトリを設定することもできます。

マッピングでのデータのソート

データ統合サービスは、ソート順を設定するマッピング用のパーティションを作成できます。ソート済みフラットファイルソース、ソート済みリレーショナルソース、またはソータトランスフォーメーションを使用したマッピングでのソート順を設定できます。データ統合サービスがマッピングにパーティションポイントを追加すると、データが再配布され、マッピング内ですでに設定されている順序が失われることがあります。パーティション化されたマッピングで順序を保持するには、トランスフォーメーションの詳細

細プロパティで、式、Java、シーケンスジェネレータ、SQL、および書き込みトランスフォーメーションが行の順序を保持することを指定する必要があります。

パーティション化されたフラットファイルターゲット

フラットファイルターゲットに複数のスレッドが書き込むときのパフォーマンスを最適化するには、フラットファイルデータオブジェクト用に複数の出力ファイルディレクトリを設定します。管理者がデータ統合サービス用に複数のターゲットディレクトリを設定した場合は、TargetDir システムパラメータのデフォルト値を使用できます。TargetDir システムパラメータのデフォルト値をオーバーライドし、フラットファイルデータオブジェクトに固有の複数の出力ファイルディレクトリを設定することもできます。

トランスフォーメーションの推奨並行処理値

マッピングの最大並行処理値をオーバーライドする場合、特定のトランスフォーメーションの推奨並行処理値を定義できます。データ統合サービスは、トランスフォーメーションをパーティション化できる場合、そのトランスフォーメーションパイプラインステージのスレッド数として、推奨並行処理値を使用します。ユーザーは、マッピングまたはデータ統合サービス用に定義された最大並行処理値より小さい推奨並行処理値を定義できます。多数のポートが含まれるトランスフォーメーションや複雑な計算を実行するトランスフォーメーションでは、パフォーマンスを最適化するために推奨並行処理値を定義することができます。

パーティション化されたマッピングの詳細については、『*Informatica 10.0 開発者マッピングガイド*』の章「パーティション化されたマッピング」を参照してください。

ランタイムプロパティ

バージョン 10.0 では、以下のランタイムプロパティをマッピングに対して設定できます。

エラー時の停止

リーダー、ライタ、またはトランスフォーメーションのスレッドで致命的でないエラーが発生した場合にマッピングを停止します。デフォルトでは無効になっています。

ターゲットコミット間隔

コミットの基本になる行数です。データ統合サービスは、処理するターゲット行の数およびターゲットテーブルの制約に基づいてデータをコミットします。

詳細については、『*Informatica 10.0 Developer マッピングガイド*』を参照してください。

ターゲットロード順序の制約

バージョン 10.0 では、行がロードされてマッピング内のターゲットインスタンス全体にコミットされる順序を制御する制約を設定できます。マッピングの【プロパティ】ビューに表示される【ロード順序】タブで制約を定義します。各制約は、ロード順序を制限するプライマリターゲット名およびセカンダリターゲット名で構成されています。

詳細については、『*Informatica 10.0 Developer マッピングガイド*』を参照してください。

Metadata Manager

ここでは、バージョン 10.0 の新しい Metadata Manager 機能について説明します。

Tableau リソース

バージョン 10.0 では、Tableau リソースを作成し、Tableau Server からメタデータを抽出するように Tableau リソースを設定できます。

Tableau リソースの作成および設定についての詳細は、『*Informatica 10.0 Metadata Manager 管理者ガイド*』の「Business Intelligence リソース」を参照してください。

サポートされているメタデータソースバージョンの詳細については、Informatica My Support ポータルの *PCAE Metadata Manager XConnect Support* 製品可用性マトリックスを参照してください：
<https://mysupport.informatica.com/community/my-support/product-availability-matrices>

データリネージュの改良点

バージョン 10.0 では、データリネージュ図に次の改良点が含まれます。

PowerCenter マッピングのサマリリネージュ

PowerCenter マッピングが含まれるデータリネージュ図を表示した場合、Metadata Manager はデフォルトでマッピングのサマリビューを表示します。サマリビューには、データリネージュ図内のマッピングの入力と出力が表示されますが、トランスフォーメーションロジックは表示されません。サマリビューでは、データリネージュ図の複雑さが軽減されます。また、Metadata Manager でのデータリネージュ図の生成時間が短縮されます。

マッピング内のすべてのトランスフォーメーションロジックを表示するには、データリネージュ図のツールバーで「詳細に切り替え」をクリックします。次の図は、「詳細に切り替え」ボタンを示しています。



詳細ビューからサマリビューに戻るには、図を更新します。

オブジェクトのフィルタリング

データリネージュ図に表示するオブジェクトをフィルタリングできます。個々のオブジェクト、または特定のクラスのすべてのオブジェクトをフィルタリングできます。例えば、データリネージュ図からすべてのビジネス用語を除外することができます。適用した任意のフィルタを削除できます。

パフォーマンスの向上

Metadata Manager は、ファイルベースのグラフデータベースを使用して、データリネージュのリンク情報をソートして取得します。結果として、Metadata Manager は以前のバージョンよりも短時間でデータリネージュ図を生成します。

バージョン 10.0 にアップグレードすると、グラフデータベースが作成され、データリネージュのリンク情報が Metadata Manager リポジトリからグラフデータベースにコピーされます。グラフデータベースファイルの格納に使用する場所を設定できます。

図の作成のキャンセル

データリネージュ図の生成に長い時間がかかっている場合、図の作成をキャンセルできます。

データリネージュ図の詳細については、『*Informatica 10.0 Metadata Manager ユーザーガイド*』の「データリネージュに関する作業」を参照してください。Metadata Manager リネージュグラフの位置の設定の詳細については、『*Informatica 10.0 アプリケーションサービスガイド*』の「Metadata Manager サービス」を参照してください。

メタデータカタログビュー

バージョン 10.0 では、メタデータカタログに、メタデータを参照するための 2 つの異なるビュー（リストビューとツリービュー）が含まれます。リストビューを使用して、リソース、論理グループ、メタデータオブジェクトを個別にドリルダウンします。ツリービューを使用して、メタデータオブジェクトを階層的に表示します。

メタデータカタログビューの詳細については、『*Informatica 10.0 Metadata Manager ユーザーガイド*』を参照してください。

Cloudera Navigator リソースの Impala クエリ

バージョン 10.0 では、Metadata Manager は、Cloudera Hadoop クラスタから Impala クエリテンプレートとクエリ実行を抽出できます。

Cloudera Navigator リソースの Impala クエリの詳細については、『*Informatica 10.0 Metadata Manager 管理者ガイド*』の「データベース管理リソース」を参照してください。

Informatica Platform リソースのパラメータ

バージョン 10.0 では、Informatica Platform リソースで、マッピングパラメータを使用するマッピングのメタデータを抽出できます。

Informatica Platform 10.x アプリケーションにパラメータを使用したマッピングが含まれている場合、パラメータセットからのパラメータ値を使用するように Metadata Manager を設定できます。Informatica Platform リソースの作成時に、パラメータセットをマッピングに割り当てます。Metadata Manager は、パラメータ値を使用して、マッピングオブジェクトおよびデータリネージュを表示します。

Informatica Platform リソースの詳細については、『*Informatica 10.0 Metadata Manager 管理者ガイド*』の章「データ統合リソース」を参照してください。

最近の履歴

バージョン 10.0 では、Metadata Manager で、メタデータカタログに表示するオブジェクトの履歴が保持されます。最近の履歴を使用して、以前表示したオブジェクトにすばやく戻ります。ログアウトすると、最近の履歴が消去されます。

詳細については、『*Informatica 10.0 Metadata Manager ユーザーガイド*』の「メタデータの表示」の章を参照してください。

関連するカタログオブジェクトおよび影響のサマリのフィルタおよびソート

バージョン 10.0 では、メタデータオブジェクトまたはビジネス用語の詳細を表示する場合、関連するカタログオブジェクトおよび影響のサマリのフィルタとソートができます。オブジェクトクラス、オブジェクト名、またはパスを使用して、フィルタリングとソートができます。また、メタデータソースタイプを使用して、影響のサマ리를フィルタリングできます。

詳細については、『*Informatica 10.0 Metadata Manager ユーザーガイド*』の「メタデータの表示」の章を参照してください。

影響のサマリ内のセッションタスクインスタンス

バージョン 10.0 では、影響のサマリに、PowerCenter セッションタスクインスタンスのリストが表示されます。PowerCenter マッピングに影響を与える、または PowerCenter マッピングの影響を受けるオブジェクトのメタデータの詳細を表示すると、影響のサマリにセッションタスクインスタンスのリストが表示されます。

メタデータオブジェクトをエクスポートし、影響のサマリを含めた場合、エクスポートファイルの影響のサマリセクションに、関連付けられたセッションタスクインスタンスもリストされます。

セッションタスクインスタンスがデータフローに影響する可能性があるため、影響のサマリにセッションタスクインスタンスのリストが表示されます。セッションタスクインスタンスは、ソースまたはターゲットの接続情報をオーバーライドできます。また、ソースからのデータの抽出に使用するデフォルトのクエリを上書きする SQL クエリをセッションタスクインスタンスに含めることもできます。

影響のサマリの詳細については、『*Informatica 10.0 Metadata Manager ユーザーガイド*』の「メタデータの表示」を参照してください。

アプリケーションおよびデータリネージュプロパティ

バージョン 10.0 では、新しいアプリケーションおよびデータリネージュプロパティを Metadata Manager imm.properties ファイルで設定できます。

以下の表に、imm.properties に含まれている新しい Metadata Manager アプリケーションプロパティを示します。

プロパティ	説明
xconnect.custom.failLoadOnErrorCount	カスタムリソースのロード時に Metadata Manager サービスで許容される最大エラー数。この数を超えるエラーが発生すると、リソースのロードに失敗します。
xconnect.io.print.batch.errors	カスタムリソースのロード時に Metadata Manager サービスが 1 回のバッチでメモリキャッシュおよび mm.log ファイルに書き込むエラーの数。

以下の表に、imm.properties に含まれる新しいデータリネージュプロパティを示します。

プロパティ	説明
Lineage.PreCompute.ElementsInSingleTransaction	Metadata Manager サービスがリネージュグラフの作成中に単一トランザクション内で処理できるグラフ要素（辺や頂点など）の最大数。
Lineage.PreCompute.FetchBlockSize	Metadata Manager サービスが、Metadata Manager ウェアハウスからデータリネージュリンク情報を取得してグラフデータベースにデータを追加するときに、1 つのブロックで処理するレコード数。

imm.properties ファイルの詳細については、『*Informatica 10.0 Metadata Manager 管理者ガイド*』の付録「Metadata Manager のプロパティファイル」を参照してください。

PowerCenter

ここでは、バージョン 10.0 の新しい PowerCenter 機能について説明します。

高可用性

バージョン 10.0 では、PowerCenter 統合サービスおよび PowerCenter Client により、可用性の高い NameNode を使用する Hadoop クラスタに対して、読み取りと書き込みが可能です。

詳細については、『*Informatica 10.0 PowerExchange for Hadoop PowerCenter 用ユーザーガイド*』の章「Hadoop 構成での PowerExchange」を参照してください。

PowerExchange アダプタ

ここでは、バージョン 10.0 の新しい PowerExchange アダプタ機能について説明します。

PowerExchange Adapters for Informatica

ここでは、バージョン 10.0 の新しい Informatica アダプタ機能について説明します。

PowerExchange for Greenplum

バージョン 10.0 では、PowerExchange for Greenplum で次のタスクを実行できます。

- Greenplum データオブジェクトの動的パーティションを設定できます。データ統合サービスが実行時に作成するパーティションの数を決定できるように、パーティション情報を設定できます。
- Greenplum データオブジェクト操作プロパティをパラメータ化して、実行時に書き込みデータオブジェクト操作プロパティをオーバーライドできます。
- Max_Line_Length の整数を使用して、gpload に渡される XML トランスフォーメーションデータの行の最大長を指定できます。

詳細については、『*Informatica PowerExchange for Greenplum 10.0 ユーザーガイド*』を参照してください。

PowerExchange for HBase

バージョン 10.0 では、HBase データオブジェクトの読み取りおよび書き込み操作プロパティをパラメータ化できます。

詳細については、『*Informatica PowerExchange for HBase 10.0 ユーザーガイド*』を参照してください。

PowerExchange for HDFS

バージョン 10.0 では、複合ファイルデータオブジェクトの読み取りおよび書き込み操作プロパティをパラメータ化できます。

詳細については、『*Informatica PowerExchange for HDFS 10.0 ユーザーガイド*』を参照してください。

PowerExchange for JD Edwards EnterpriseOne

バージョン 10.0 では、PowerExchange for JD Edwards EnterpriseOne を使用して、JD Edwards EnterpriseOne ソースからデータを抽出したり、JD Edwards EnterpriseOne ターゲットにデータを書き込んだりできます。

詳細については、『*Informatica PowerExchange for JD Edwards EnterpriseOne 10.0 ユーザーガイド*』を参照してください。

PowerExchange for LDAP

バージョン 10.0 では、PowerExchange for LDAP を使用して、LDAP ディレクトリサーバーに対してデータの読み取りおよび書き込みを行うことができます。

詳細については、『*Informatica PowerExchange for LDAP 10.0 ユーザーガイド*』を参照してください。

PowerExchange for Microsoft Dynamics CRM

バージョン 10.0 では、PowerExchange for Microsoft Dynamics CRM を使用して、Microsoft Dynamics CRM に対してデータの読み取りおよび書き込みを行うことができます。Microsoft Dynamics CRM ビジネスエンテ

ィティを読み取りおよび書き込みデータオブジェクトとしてインポートし、マッピングを作成して実行し、Microsoft Dynamics CRM エンティティに対してデータの抽出またはロードを行うことができます。

詳細については、『*Informatica PowerExchange for Microsoft Dynamics CRM 10.0 ユーザーガイド*』を参照してください。

PowerExchange for Netezza

バージョン 10.0 では、PowerExchange for Netezza で次のタスクを実行できます。

- PowerExchange for Netezza を使用して、Netezza データベースに対してデータの読み取りおよび書き込みを行うことができます。PowerExchange for Netezza を使用して、大量のデータを処理できます。
- Secure Sockets Layer (SSL) プロトコルを使用して、Netezza クライアントと Netezza サーバー間にセキュアな接続を設定できます。

詳細については、『*Informatica PowerExchange for Netezza 10.0 ユーザーガイド*』を参照してください。

PowerExchange for OData

バージョン 10.0 では、PowerExchange for OData を使用して、OData サービスを介してデータを公開する OData プロバイダからデータを読み取ることができます。また、OData データオブジェクトに対してプロファイルを実行することもできます。

詳細については、『*Informatica PowerExchange for OData 10.0 ユーザーガイド*』を参照してください。

PowerExchange for SAP NetWeaver

バージョン 10.0 では、PowerExchange for SAP NetWeaver で次のタスクを実行できます。

- Developer tool を使用して、SAP テーブルデータオブジェクトおよびデータオブジェクト読み取り操作の作成ができます。次に、読み取り操作をマッピングのソースまたはルックアップとして追加してマッピングを実行し、SAP テーブルのデータの読み取りまたは検索を行うことができます。
- SAP テーブルからデータを読み取る場合、キー範囲パーティション化を設定できます。また、パラメータを使用して、実行時に接続およびテーブルデータオブジェクトの読み取り操作プロパティを変更することもできます。
- SAP テーブルデータオブジェクトに対してプロファイルを実行できます。
- SQL データサービスを作成する場合、SAP テーブルデータオブジェクトの読み取り操作を仮想テーブルとして追加できます。
- オープンハブ宛先または InfoSpoke 経由で、SAP BW システムからデータを読み取ることができます。
- SAP BW システムからデータを読み取る場合、動的パーティションまたは固定パーティションを設定できます。また、パラメータを使用して、実行時に接続および BW OHS 抽出データオブジェクトの読み取り操作プロパティを変更することもできます。
- SAP BW システムにデータを書き込むことができます。3.x または 7.x のデータソースを使用して、SAP BW システムにデータを書き込むことができます。
- SAP BW システムにデータを書き込む場合、動的パーティションを設定できます。また、パラメータを使用して、実行時に接続および BW ロードデータオブジェクトの書き込み操作プロパティを変更することもできます。
- Administrator ツールで SAP 接続を作成できます。
- Developer tool を使用して、SAP BW に対してデータの読み取りまたは書き込みを行う場合、Administrator ツールで SAP BW サービスを作成できます。

詳細については、『*Informatica PowerExchange for SAP NetWeaver 10.0 ユーザーガイド*』を参照してください。

PowerExchange for Teradata Parallel Transporter API

バージョン 10.0 では、PowerExchange for Teradata Parallel Transporter API で次のタスクを実行できます。

- PowerExchange for Teradata Parallel Transporter API を使用して、Teradata テーブルから大量のデータを読み取ることができます。
- Update システム演算子を使用して、Teradata データベーステーブルに対して挿入、更新、更新/挿入、および削除操作を実行できます。
- Secure Sockets Layer (SSL) プロトコルを使用して、Developer tool と Teradata データベース間にセキュアな接続を設定できます。
- Teradata Parallel Transporter API データオブジェクトの動的パーティションを設定できます。データ統合サービスが実行時に作成するパーティションの数を決定できるように、パーティション情報を設定できます。
- Teradata データオブジェクト操作プロパティをパラメータ化して、実行時に読み取りおよび書き込みデータオブジェクト操作プロパティをオーバーライドできます。

詳細については、『*Informatica PowerExchange for Teradata Parallel Transporter API 10.0 ユーザーガイド*』を参照してください。

参照データ

ここでは、バージョン 10.0 の新しい参照データ機能について説明します。

分類子モデル

バージョン 10.0 では、Developer tool で、分類子モデルの次のアクションを実行できます。

- 参照データ値とラベル値をデータソースから分類子モデルにインポートする。
- 分類子モデルで、設定可能なオプションをリボンから選択する。例えば、[ラベルの管理] オプションを選択し、分類子モデルでラベル値を追加、削除、または更新するためのオプションにアクセスします。
- 分類子モデルの検索フィルタでワイルドカード文字を使用する。
- 1 行のデータを分類子モデルに追加する。
- 1 回の操作で、複数行の分類子モデルデータにラベル値を適用する。

詳細については、『*Informatica 10.0 参照データガイド*』の「分類子モデル」の章を参照してください。

確率モデル

バージョン 10.0 では、Developer tool で、確率モデルの次のアクションを実行できます。

- 1 回の操作で、複数の参照データ値にラベルを割り当てる。
- ラベル値と参照データ値をデータソースから確率モデルにインポートする。
- 選択したラベルを使用する参照データ値の現在の数を表示する。

バージョン 10.0 では、Developer tool の 1 つ以上のページに確率モデルのデータ行が表示されます。ページには、100 の参照データ行が含まれます。モデル内で前のページまたは次のページに移動できます。また、指定したページ番号に移動できます。

詳細については、『*Informatica 10.0 参照データガイド*』の「確率モデル」の章を参照してください。

ルール仕様

ここでは、バージョン 10.0 のルール仕様に関する新機能について説明します。

リンクされたアセット

バージョン 10.0 では、Analyst ツールの設計ワークスペースには、ルール仕様にリンクしたアセットへのハイパーリンクが表示されます。例えば、ルール仕様内で別のルールアセットを使用した場合、ワークスペースにそのルールアセットへのリンクが表示されます。また、[デザイン] ワークスペースには、ルール仕様から生成したすべてのルールへのハイパーリンクが表示されます。

ルール仕様のプロパティで、[アセット] の下にハイパーリンクが表示されます。

詳細については、『*Informatica 10.0 ルール仕様ガイド*』の「ルール仕様の設定」を参照してください。

マップレットルール

バージョン 10.0 では、マップレットルールを以下の方法で使用できます。

- 指定する期間中に有効なルール仕様を設定できます。この期間の開始と終了を示す日付と時刻を指定します。ルール仕様からコンパイルしたマップレットルールにもこの期間が適用されます。この期間以外でマップレットルールを読み取るマッピングを実行すると、マッピングは失敗します。

詳細については、『*Informatica 10.0 ルール仕様ガイド*』の「ルール仕様の設定」を参照してください。

- マップレットルールを、ルール文内の条件およびアクションに追加できます。ルール仕様からの入力をマップレットルールの入力ポートに接続します。または、定数値をマップレットルールの入力として使用します。マップレットルールからの出力ポートを、条件またはアクションからの出力として選択します。

詳細については、『*Informatica 10.0 ルール仕様ガイド*』の「ルール仕様の設定」を参照してください。

ルール文

バージョン 10.0 では、ルール文で次の操作を実行できます。

- ルールセット内でのルール文の移動またはコピー、ルール文の別のルールセットへの移動またはコピー。ルール文を別のルール仕様内のルールセットに移動またはコピーできます。別のルール仕様にルール文を移動またはコピーする場合、ルール文で使用している入力移動またはコピーされます。また、この操作では、ルール文をテストするために入力および保存されたすべてのテストデータが移動またはコピーされます。
- ルール仕様内の別の場所、および別のルール仕様へのルールセットの移動またはコピー。別のルール仕様にルールセットを移動またはコピーする場合、ルールセットで使用している入力とテストデータが移動またはコピーされます。
- あるルール仕様から別のルール仕様へのテストデータの移動またはコピー。
- ルール文内で条件を設定する場合に、CONTAINS 演算子を選択する。この演算子を使用して、入力カラムのデータ値に関する次の情報を確認します。
 - 入力したデータ値が入力カラムに含まれているかどうかを確認します。
 - 別の入力カラムの同じ行に含まれているデータ値が入力カラムに含まれているかどうかを確認します。
- 入力した値リスト内の入力値を検索するようにルール文を設定する。
- ルールセットには、定義済みルール文が含まれます。これは、前のルール文でデータが生成されなかった場合に実行するアクションを指定するものです。デフォルトでは、ルールセットがアクションを実行しないようにルール文で指定されています。ルール文内のアクションは、更新できます。

詳細については、『*Informatica 10.0 ルール仕様ガイド*』の「ルール文の設定」を参照してください。

ユーザーインターフェースの改良点

バージョン 10.0 では、設計ワークスペースに、ルール仕様のユーザーインターフェースに関する次の改良点が含まれます。

- ルールセットの入力ビューを選択した場合、ルールセットに含まれない入力はワークスペースに表示されなくなります。
- ワークスペースキャンバス内でルール仕様をドラッグできます。
- マウスホイールを使用して、ルール仕様のズームインとズームアウトができます。
- ルール仕様のツリー構造を展開するまたは折りたたむことで、ルール仕様のさまざまな部分を表示したり、非表示にしたりできます。
- テキストの説明を入力に追加できます。
- 子ルールセットの出力を読み取るルールセットでは、入力リストに子ルールセット名が表示されます。
- 無効なルールセットは、有効なルールセットとは異なる色で表示されます。
- 一部の設定可能なオプションに新しい名前が付けられています。

詳細については、『*Informatica 10.0 ルール仕様ガイド*』を参照してください。

バージョン管理

バージョン 10.0 では、バージョン管理されたモデルリポジトリ内でルール仕様を使用できます。バージョン管理を使用するモデルリポジトリからルール仕様を開いた場合、Analyst ツールは、バージョン管理プロパティをルール仕様に適用します。設計ワークスペースの【編集】オプションを使用して、リポジトリからルール仕様をチェックアウトします。設計ワークスペースの【保存して完了】オプションを使用して、ルール仕様をチェックインします。チェックアウト操作を取り消すこともできます。

以前のバージョンのルール仕様を参照し、編集モードおよび読み取り専用モードで前のバージョンに戻すことができます。古いバージョンのルール仕様を読み取り専用モードで参照するとき、最新バージョンにのルール仕様に適用されるすべての読み取り専用操作を実行できます。読み取り専用モードでルール仕様を参照および検証できます。ルール仕様にテストデータが含まれる場合、ルール仕様を読み取り専用モードでテストできます。

詳細については、『*Informatica 10.0 Analyst ガイド*』の「モデルリポジトリ」を参照してください。

セキュリティ

ここでは、バージョン 10.0 の新しいセキュリティ機能について説明します。

グループ

バージョン 10.0 では、Informatica に Operator というデフォルトグループが追加されています。Operator グループを使用して、Operator ロールが割り当てられている複数のユーザーを管理します。

詳細については、『*Informatica 10.0 セキュリティガイド*』を参照してください。

特権

バージョン 10.0 では、次の新しい特権が含まれています。

モデルリポジトリサービス特権

【チームベース開発の管理】特権を使用すると、モデルリポジトリ管理者は、オブジェクトロックの管理とバージョン管理されたオブジェクトの管理に関連するアクションを実行できます。

スケジューラサービス特権

【スケジューラ】特権グループでは、スケジュールとスケジュール済みのジョブに対してユーザーが実行できるアクションを決定します。

詳細については、『*Informatica 10.0 セキュリティガイド*』の付録「コマンドラインの特権および権限」を参照してください。

ロール

バージョン 10.0 では、Informatica にオペレータというカスタムロールが含まれます。オペレータロールには、アプリケーションサービスを管理、スケジュール、および監視する特権が含まれます。

詳細については、『*Informatica 10.0 セキュリティガイド*』を参照してください。

トランスフォーメーション言語関数

ここでは、バージョン 10.0 のトランスフォーメーション言語関数の新機能について説明します。

Informatica 関数

ここでは、バージョン 10.0 における Informatica 関数の新しい機能について説明します。

CaseFlag

バージョン 10.0 では、CaseFlag オプションで、GREATEST、LEAST、IN、および INDEXOF 関数の NULL 値がサポートされていません。

以前は、CaseFlag オプションで NULL 値がサポートされていました。

詳細については、『*Informatica 10.0 Developer トランスフォーメーション言語リファレンス*』の「関数」を参照してください。

TO_DECIMAL38 関数

バージョン 10.0 では、TO_DECIMAL38 関数を使用して、文字列値または数値を 10 進型の値に変換できます。この関数は、0 から 38 の精度と位取りを持つ 10 進型の値を返します。

詳細については、『*Informatica 10.0 トランスフォーメーション言語リファレンス*』を参照してください。

トランスフォーメーション

ここでは、バージョン 10.0 の新しいトランスフォーメーション機能について説明します。

Informatica トランスフォーメーション

ここでは、バージョン 10.0 の Informatica トランスフォーメーションの新しい機能について説明します。

アドレスバリデータトランスフォーメーション

バージョン 10.0 では、次のトランスフォーメーションプロパティを設定するようにパラメータを定義できます。

- Geocode データ型
- グローバル最大フィールド長
- 最大結果カウント
- 最適化レベル
- 無効なアドレスの標準化

詳細については、『*Informatica 10.0 Developer トランスフォーメーションガイド*』の「アドレスバリデータトランスフォーメーション」を参照してください。

不良レコードの例外トランスフォーメーション

バージョン 10.0 では、パラメータを使用して、トランスフォーメーションで不良レコードを特定するために使用する上方しきい値と下方しきい値を指定できます。

詳細については、『*Informatica 10.0 Developer マッピングガイド*』の「マッピングパラメータ」を参照してください。

データプロセッサトランスフォーメーション

ここでは、新しいデータプロセッサトランスフォーメーションの機能について説明します。

Data Transformation ライブラリ

Data Transformation ライブラリには、幅広い業界メッセージング標準に対応する事前定義されたトランスフォーメーションコンポーネントが含まれています。データプロセッサトランスフォーメーションはライブラリオブジェクトを使用して、業界標準のメッセージングタイプを XML 出力ドキュメントなどの別の書式に変換したり、XML 入力を業界メッセージ出力に変換したりします。

ライブラリオブジェクトには、パーサー、シリアルライザ、および業界標準の入力および特定のアプリケーションメッセージを XML またはその他の出力に変換するように事前設定された XML スキーマなどの、数多くのオブジェクトやコンポーネントが含まれています。一部のライブラリには、メッセージの検証、承認、および診断表示のための追加オブジェクトが含まれています。ライブラリオブジェクトのプロパティや検証設定はカスタマイズすることもできます。

DTCC-NTCC、EDIFACT、EDI-X12、HIPAA、HL7、および SWIFT の各ライブラリのライブラリオブジェクトを作成できます。

詳細については、『*Informatica Data Transformation 10.0 ユーザーガイド*』および『*Informatica Data Transformation 10.0 ライブラリガイド*』を参照してください。

ストリーマのない複合ファイルリーダー

入力を受信するデータプロセッサトランスフォーメーションで、ストリーマのない複合ファイルリーダーをスタートアップコンポーネントとして使用できます。

詳細については、『*Informatica Data Transformation 10.0 ユーザーガイド*』を参照してください。

カスタムデータ型のパススルーポート

データプロセッサトランスフォーメーションには、カスタムデータ型のパススルーポートを含めることができます。

カスタムデータ型の詳細については、『*Informatica Developer 10.0 ユーザーガイド*』を参照してください。

XMap の RunMaplet 文

データプロセッサトランスフォーメーションの XMap からマップレットを呼び出す、RunMaplet マッピング文を定義できます。RunMaplet 文の下に 1 つ以上の MapletInput 文および MapletOutput 文をネストできます。値は、MapletInput 文に表示されるのと同じ順序でマップレット入力ポートにマップされます。マップレット出力ポート内の値は、マップレットポートに表示されるのと同じ順序で MapletOutput 文にマップされます。

詳細については、『*Informatica Data Transformation 10.0 ユーザーガイド*』を参照してください。

スクリプトモードの編集

外部エディタを使用して、データプロセッサトランスフォーメーションのスクリプトを編集できます。例えば、外部エディタを使用して、グローバルな検索と置換操作を実行できます。

詳細については、『*Informatica Data Transformation 10.0 ユーザーガイド*』を参照してください。

ディシジョントランスフォーメーション

バージョン 10.0 では、パラメータを使用して、ディシジョントランスフォーメーションスクリプトの入力値を指定できます。

詳細については、『*Informatica 10.0 Developer マッピングガイド*』の「マッピングパラメータ」を参照してください。

重複レコードの例外トランスフォーメーション

バージョン 10.0 では、パラメータを使用して、トランスフォーメーションで重複レコードを特定するために使用する上方しきい値と下方しきい値を指定できます。

詳細については、『*Informatica 10.0 Developer マッピングガイド*』の「マッピングパラメータ」を参照してください。

式トランスフォーメーション

ここでは、式トランスフォーメーションの新機能について説明します。

動的式

バージョン 10.0 では、動的出力ポートで式を作成できます。動的ポートで式を作成すると、式は動的式になります。動的式にポートセレクトラまたは動的ポートが含まれていると、複数の出力ポートが生成される場合があります。動的式を複数のポートに対して実行すると、ポートごとに出力値が返されます。

動的式の詳細については、『*Informatica 10.0 Developer トランスフォーメーションガイド*』の「式トランスフォーメーション」を参照してください。

マッピング出力

バージョン 10.0 では、マッピング出力を設定できます。マッピング出力は、マッピングで処理する各行のフィールドまたは式を集計した結果である単一値です。例えば、マッピング出力では、トランスフォーメーションが受け取るすべてのソース行から注文フィールドの合計金額を集計することができます。マッピング出力式は、式トランスフォーメーションが受信する行の集計対象のフィールド値または式です。式トランスフォーメーションで対応する式を作成するには、マッピングの【プロパティ】ビューでマッピング出力を定義する必要があります。

マッピング出力の詳細については、『*Informatica 10.0 Developer マッピングガイド*』の「マッピング出力」を参照してください。

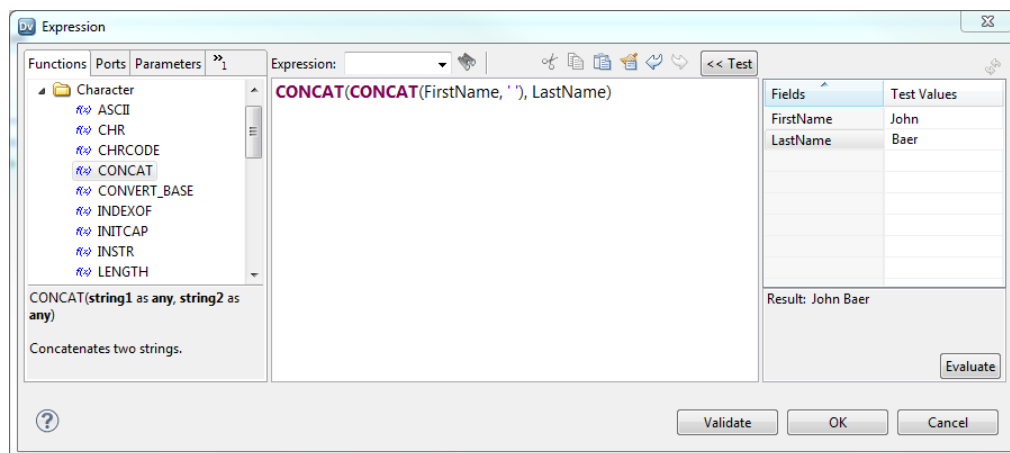
テスト式

バージョン 10.0 では、式エディタで設定した式をテストできます。式をテストするときは、サンプルデータを入力してから式を評価します。

次の方法で式を設定すると、式をテストできます。

- 式トランスフォーメーション内の出力ポートまたは変数ポート内
- トランスフォーメーションをマッピングに追加した後の、式トランスフォーメーションの「マッピング出力」ビュー内

次の図は、サンプルの名と姓を連結する式の結果を示しています。



式のテストの詳細については、『*Informatica 10.0 Developer トランスフォーメーションガイド*』の「式トランスフォーメーション」を参照してください。

階層型からリレーショナルへのトランスフォーメーション

ここでは、Developer tool で作成する階層型からリレーショナルへのトランスフォーメーションについて説明します。

階層型からリレーショナルへのトランスフォーメーションは、バージョン 10.0 で導入された最適化済みのトランスフォーメーションで、階層入力をリレーショナル出力に変換します。

詳細については、『*Informatica 10.0 Developer トランスフォーメーションガイド*』を参照してください。

一致トランスフォーメーション

ID 照合分析の照合タイプオプション

バージョン 10.0 では、ID インデックスデータの永続ストアを読み取るように一致トランスフォーメーションを設定する場合、次のオプションを選択できます。

データベースから ID を削除する

行がシーケンス識別子をマッピングソースデータの行と共有している場合、トランスフォーメーションはその行をインデックステーブルから削除します。このオプションを選択した場合は、トランスフォーメーションは照合分析を実行しません。

データベースの現在の ID を更新する

行がシーケンス識別子を共有するときは、トランスフォーメーションがインデックステーブルの行をマッピングソースデータの行に置換します。トランスフォーメーションは行をインデックスに追加しません。トランスフォーメーションは、照合分析に追加しない行を含めることができます。

詳細については、『*Informatica 10.0 Developer トランスフォーメーションガイド*』の「ID 分析での一致トランスフォーメーション」を参照してください。

ID 照合分析における一致プロセスのオプション

バージョン 10.0 では、ID インデックスデータの永続ストアを更新するようにトランスフォーメーションを設定する場合、照合分析を有効または無効にすることができます。照合分析を有効または無効にするには、**[一致プロセス]** オプションを使用します。

詳細については、『*Informatica 10.0 Developer トランスフォーメーションガイド*』の「ID 分析での一致トランスフォーメーション」を参照してください。

永続インデックスストアでの ID 分析のステータスコード

バージョン 10.0 では、一致トランスフォーメーションで次のステータスコードを生成することで、永続インデックスストアの照合分析の結果を示すことができます。

不完全

インデックスデータストアに現在のレコードのデータが含まれていません。

不正

トランスフォーメーションで現在のレコードを分析できません。例えば、[照合タイプ] タブのキーフィールドがレコードデータと互換性がないため、トランスフォーメーションがレコードのインデックスデータを生成できません。

削除済み

トランスフォーメーションが、レコードのインデックスデータをインデックスデータストアから削除します。

更新済み

トランスフォーメーションがトランスフォーメーション入力レコードのインデックスデータに基づいて永続データストアの行を更新します。トランスフォーメーションの入力データと永続インデックスデータは共通のシーケンス識別子を持ちます。

詳細については、『*Informatica 10.0 Developer トランスフォーメーションガイド*』の「一致トランスフォーメーション」を参照してください。

パラメータの使用

バージョン 10.0 では、パラメータを使用して、一致トランスフォーメーションに関する次のオプションを設定できます。

- マッチ率のしきい値。
- トランスフォーメーションが各照合ストラテジからのスコアに適用する相対的なウェイト。
- トランスフォーメーションが ID 照合分析で永続インデックスデータストアに適用する永続方法。

詳細については、『*Informatica 10.0 Developer マッピングガイド*』の「マッピングパラメータ」を参照してください。

シーケンス ID ポート

バージョン 10.0 では、永続インデックスストアを読み取るようにトランスフォーメーションを設定した場合、一致トランスフォーメーションの出力ポートにシーケンス ID ポートが含まれます。トランスフォーメーションは、シーケンス識別子の値を使用して、照合分析の各段階を通じてインデックスデータを追跡します。

詳細については、『*Informatica 10.0 Developer トランスフォーメーションガイド*』の「一致トランスフォーメーション」を参照してください。

SQL トランスフォーメーション

ここでは、SQL トランスフォーメーションの新しい機能について説明します。

バージョン 10.0 では、SQL トランスフォーメーションの接続をパラメータ化できます。パラメータをマッピングで定義します。次に、パラメータを SQL トランスフォーメーションのランタイムプロパティで接続名に割り当てます。

詳細については、『*Informatica 10.0 トランスフォーメーションガイド*』の「SQL トランスフォーメーション」を参照してください。

動的マッピングのトランスフォーメーション

ここでは、動的マッピングのトランスフォーメーションの新しい機能について説明します。

バージョン 10.0 では、動的ポートを追加できるトランスフォーメーションがいくつかあります。アップストリームトランスフォーメーションからのポートにリンクする出力ポートをパラメータ化することもできます。ポートセレクトが、トランスフォーメーションロジックの複数のポートを参照するように設定できます。

トランスフォーメーションの【プロパティ】ビューには以下の新しいタブが含まれます。

グループ別

アグリゲータトランスフォーメーション、ランクトランスフォーメーション、およびソータートランスフォーメーションに対してポートグループを設定する必要があります。グループを【グループ別】タブで設定できるようになりました。ポートを選択してグループを定義するか、ポートリストを含むパラメータを設定することができます。【グループ別】タブでは、生成されたポートを持つトランスフォーメーションを柔軟に設定できます。

ポートセレクト

トランスフォーメーションロジックで複数のポートを参照できます。ポートの順序付けリストであるポートセレクトを定義します。参照ポートセレクトは、動的式、結合条件、またはロックアップ条件で使用できます。ポートセレクトを定義するとき、ポート名、ポートタイプ、またはテキスト文字のパターンに基づいてトランスフォーメーションポートを含める、または除外することができます。

ランタイムリンク

トランスフォーメーションを動的マッピング内で設定するとき、トランスフォーメーション間でリンクするポートを指定するパラメータまたはリンクポリシーを設定します。動的ポートを静的ポートにリンクするランタイムリンクを設定します。ポートを名前でリンクするリンクポリシーを設定できます。InputLinkSet パラメータを設定して、ランタイムにリンクするポートの名前を指定できます。

詳細については、『*Informatica 10.0 トランスフォーメーションガイド*』を参照してください。

ワークフロー

このセクションでは、バージョン 10.0 の新しいワークフロー機能について説明します。

Informatica ワークフロー

ここでは、バージョン 10.0 の Informatica ワークフローの新しい機能について説明します。

マッピングタスク

バージョン 10.0 では、マッピングタスクに以下の新しい機能が追加されています。

マッピングタスクログファイルディレクトリ

データ統合サービスがマッピングタスクログを書き込むディレクトリを設定できます。デフォルトでは、データ統合サービスは、システムパラメータである LogDir によって定義されたディレクトリにマッピングタスクログファイルを書き込みます。マッピングタスクの **【詳細】** プロパティで、マッピングタスクログファイルに別のディレクトリを設定できます。ログファイルディレクトリをパラメータ化できます。

マッピングタスクログファイル名

マッピングタスクログファイルのファイル名を設定できます。データ統合サービスは、ファイル名を [マスキングタスクログファイルディレクトリ] フィールドの情報に追加します。ログファイルの保存に関して選択する方法に応じて、ログファイル名が UID およびタイムスタンプに、またはマッピング実行番号に追加されます。ログファイル名をパラメータ化できます。マッピングタスクの **【詳細】** プロパティでログファイル名を設定します。

マッピングタスクログ保存タイプ

タイムスタンプまたはマッピングタスクの実行数でマッピングタスクログファイルを保存できます。マッピングタスクログファイル名のサフィックスには、選択したオプションが反映されます。保存するログファイルの数を設定できます。

Java クラスパス

データ統合サービスがマッピングタスクを実行するときに、システムクラスパスの先頭に追加するクラスパスを入力できます。Java トランスフォーメーションでサードパーティ製の Java パッケージ、ビルトイン Java パッケージ、またはカスタム Java パッケージを使用する場合は、**【詳細】** プロパティに Java クラスパスを入力します。

マッピングタスクのパラメータの使用

バージョン 10.0 では、マッピング内で特定のパラメータを使用するオブジェクトを表示できます。マッピングタスクの **【入力】** タブで **【パラメータの使用】** をクリックします。

カスタムプロパティ

マッピングタスクのカスタムプロパティを定義し、プロパティの値を設定できます。カスタムプロパティをパラメータ化することもできます。

詳細については、『*Informatica 10.0 Developer ワークフローガイド*』を参照してください。